

教育委員会議事録

令和2年7月定例会

海老名市教育委員会

教育委員会議事録
(令和2年7月定例会)

- 1 日 付 令和2年7月22日（水）
- 2 場 所 海老名市役所401会議室
- 3 出席委員 教育長 伊藤 文康 教育委員 平井 照江
教育委員 海野 恵子 教育委員 酒井 道子
教育委員 濱田 望
- 4 出席職員 教育部長 伊藤 修 参事兼教育総務 中込 紀美子
課長
就学支援課長 小林 丈記 専任参事兼教育 和田 修二
支援課長
教育支援課教育 浅井 大輔 学び支援課長 山田 敦司
支援担当課長
海老名市教科用 飛矢崎 義基
図書採択資料作
成委員会委員長
- 5 書 記 教育総務課長補 栗本 欣幸 教育総務課主事 湊 大輝
佐兼総務係長
- 6 開会時刻 午前10時00分
- 7 付議事件
日程第1 議案第37号 令和3年度使用教科用図書採択について
- 8 閉会時刻 午後3時08分

○伊藤教育長 本日の出席委員は全員でございます。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。これより教育委員会7月定例会を開会いたします。

本日は傍聴希望者がございます。会場前で密集することがないように、既にご着席いただいておりますが、ここで傍聴の許可についてお諮りいたします。傍聴者につきましては、海老名市教育委員会会議規則第19条に規定されておりますので、傍聴を許可したいと思いますのですが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって、本会議の傍聴を許可いたします。

今会の署名委員は、海野委員、濱田委員、それぞれよろしくお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは、審議事項に入ります。

日程第1、議案第37号、令和3年度使用教科用図書採択についてを議題といたします。

教育部長より提案理由の説明を求めます。

○教育部長 議案第37号、令和3年度使用教科用図書採択についてでございます。令和3年度に使用する教科用図書を決定したいため、議決を求めるものでございます。

資料3ページをお開きください。本日は1から3の3点について審議をお願いいたします。

1点目は、令和3年度使用中学校教科用図書の採択についてでございます。これは、海老名市教科用図書採択資料作成委員会の報告を資料とし、別紙1「中学校用教科書目録(令和3年度使用)」より、令和3年度から4年間使用する中学校教科用図書を採択し、議決を求めるものでございます。

2点目は、令和3年度使用小学校教科用図書の採択についてでございます。別紙4の令和元年度に採択した令和2年度使用小学校教科用図書一覧の教科書を継続して採択することについて議決を求めるものでございます。

3点目は、令和3年度使用特別支援学級教科用図書の採択についてでございます。特別支援学級教科用図書については、別紙6の「令和3年度用 一般図書一覧」から、教科用図書として児童生徒に応じて選択することについて議決を求めるものでございます。

それでは、この後、1点目の令和3年度使用中学校教科用図書の採択についてから、詳細を教育支援課長より説明いたしますので、採択につきましてよろしくご審議くださるようお願い申し上げます。

○教育支援課長 では、1点目の令和3年度使用中学校教科用図書の採択についてご説明いたします。

5月の教育委員会臨時会において、海老名市教科用図書採択基本方針として、令和3年度使用中学校教科用図書は、神奈川県教育委員会が定める令和3年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針に基づき、海老名市教育委員会が設置した海老名市教科用図書採択資料作成委員会の報告を資料とし、種目ごと1種の教科用図書を海老名市教育委員会が採択すると議決されております。また、海老名市教科用図書採択資料作成委員会では、令和3年度の中学校教科用図書は、神奈川県教育委員会が定める令和3年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針に基づき、海老名市教科用図書採択資料作成委員会が設置した調査委員会の報告を受け、教科用図書の採択に必要な資料を取りまとめ、海老名市教育委員会へ報告すると承認されております。

以上の点を踏まえまして、7月3日に行われました第2回海老名市教科用図書採択資料作成委員会にて審議した報告書につきましてご説明させていただきます。

お手元の資料、15ページ以降になります。別紙2、令和3年度使用中学校教科書海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書をご覧ください。この報告書は、海老名市教科用図書採択資料作成委員会が全種目の中学校教科書を調査して作成したものでございます。この報告書には、海老名、大和、座間、綾瀬の4市の調査員が、1回目を5月28日、2回目を6月17日、3回目を6月23日に調査委員会を合計3回行い、その調査結果を海老名市教科用図書採択資料作成委員会へ報告した内容を採択資料作成委員会において審議した結果がまとめられております。

なお、結果については、発行者を絞り込むことなく、それぞれの発行者について調査した結果でございます。また、市内全ての中学校へ教科書の見本本を1週間回覧し、学校からの意見を集約した結果も併せてまとめられております。

学校意見の集約方法については、まず、学校において観点に沿って調査した後、学校意見書をまとめていただき、それを海老名市教科用図書採択資料作成委員会委員長が委嘱した整理員が集計し、その結果を基に海老名市教科用図書採択資料作成委員会において報告書に発行者ごとに記載いたしました。

この海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書に加え、事前に配付させていただいた文部科学省の教科書編集趣意書、県教育委員会の調査研究の結果を踏まえ、ご審議くださいますようお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明に対しましてご質問等がございましたらお願いします。

○酒井委員 海老名市からは何人の現場の先生が調査員として教科書の調査に携わられたのか、教えていただけますか。教科別で人数と併せて教えていただければと思います。

○教育支援課長 海老名市からは19名の先生が調査員となりました。内訳を申し上げます。国語2名、書写1名、社会と地図で3名、数学2名、理科2名、音楽1名、美術1名、保健体育1名、技術1名、家庭1名、外国語2名、道徳2名でございます。

○海野委員 先ほどの説明で学校からの意見について「観点に沿って調査した」とありましたが、その観点について説明していただけますでしょうか。

○教育支援課長 観点に沿って調査したことについてのご回答でございます。各種目ともに神奈川県教科用図書採択方針に準じて10個の観点を設定いたしました。そのうち6個は各種目に共通な観点といたしました。例えば「学習指導要領の改訂の要件を踏まえた工夫や配慮がなされているか」や、「体裁など生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか」などでございます。

次の観点は種目別の観点です。例えば国語であれば、「語彙を豊かにするため題材としての工夫や配慮がなされているか」、数学であれば、「数学的活動を通して基礎的な知識及び技能を身につけるための工夫や配慮がなされているか」などでございます。

最後の1点は、本校の生徒の実態から見て適切かとなっております。

○伊藤教育長 ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ほかにご質問がないようでしたら、1から3までの3点の審議に移ります。

初めに、採択の方法についてですけれども、確認させていただきます。開かれた採択を一層推進するという趣旨から、1点目の令和3年度使用中学校教科用図書の採択の方法は、種目ごとに皆さんで協議した後、私が教科書目録に記載されている順に発行者名を言いますので、最も適する発行者に、各委員に挙手していただくという方法で進めたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。

それでは次に、海老名市教科用図書採択資料作成委員会の報告については、海老名市教

科用図書採択資料作成委員会の飛矢崎義基委員長にさせていただくことにいたしますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、飛矢崎委員長を入室させてください。

(海老名市教科用図書採択資料作成委員長入室)

報告書の作成、本当にありがとうございます。これから審議するに当たって、海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を受けて、それを基に協議してまいりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、まずは自己紹介をお願いいたします。

○飛矢崎委員長 今回、海老名市教科用図書採択資料作成委員会の委員長を務めました柏ヶ谷中学校の飛矢崎と申します。よろしくお願ひいたします。

○伊藤教育長 それでは、これより、1点目の令和3年度使用中学校教科用図書についての審議に入ります。

なお、発行者の呼び方は、教科書目録の略称で行うことをご了承ください。

初めに、中学校教科用図書、「国語」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長をお願いいたします。

○飛矢崎委員長 では、国語は、東書、三省堂、教出、光村の4者です。お手元の報告書1ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、読書教材が、関連する図書の一覧とともに提示されている。また、「読むこと」において、論の進め方を比較し、共通点と相違点に着目して主張を読み取ることで、考えを広げ、深める工夫がされている。

三省堂は、単元の目標を明示することで見通しを持って学習できるように工夫されている。また、教材の読み方の方向を図示したり、多様な語句とその表現例、辞書の活用を取り入れたりするなど、理解が深まる工夫がされている。

教出は、各教材に『学びナビ』が設定され、深く読むための視点や、表現するときの思考の働かせ方を示している。また、各領域の題材を、持続可能な開発目標(SDGs)の視点で選定しており、教材を横断的に配置している。

光村は、「情報の扱い方に関する事項」に特化したページを設け、確実に力がつくよう教材配列が工夫されている。また、各学年の最後に『学習を振り返ろう』を設け、他教科や日常生活に生かしていけるように配慮されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 学校意見等は報告書に記載のとおりです。お手元の資料には記載されておりますので、よろしくお願いします。

それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○平井委員 私どもが頂いた報告書にはもう少し詳しく書いてあるのですが、報告書では、学校意見として、東書、三省堂、教出ともに同じ観点を特徴としています。この特徴的な観点というのはどのように決めたのでしょうか。

○飛矢崎委員長 整理員が集計した学校意見のうち、観点別に集計した結果、他の発行者と比べて多かった観点から特徴的な観点を選んで報告書に記載しました。そのため、複数の発行者の特徴的な観点が同じになるような結果となっております。

○伊藤教育長 ほかには委員長に対する質問等はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、教育委員の皆さんでこれから協議を進めてまいりたいと思います。国語の採択に当たって、ご意見等がありましたらお願いいたします。

○海野委員 意見を申し上げます。光村は、日本語の豊かさや美しさのあふれるものとして、四季を表す言葉、日本語の季節の言葉を紹介しています。また、季節のしおりでは、四季を表す言葉や情緒あふれる詩歌を取り上げて、生徒の感性を揺さぶるよう工夫されていると思います。

○伊藤教育長 光村の教科書の巻末を見ると、四季を表すいろいろな名前とか、ふだん使わないような言葉も入っているのですけれども、本当に日本の豊かな言葉の表現が入っている、扱われているということですね。

○海野委員 はい。

○濱田委員 私も光村なのですが、各学年で情報整理のレッスンや思考のレッスンのコラムが定期的に掲載されておりまして、これからの時代に重要な情報活用能力を系統的に育成することができるのではないかと思います。

○酒井委員 私は三省堂の教科書が良いと思いました。三省堂が一番後ろについている読み方を学ぼうという部分で説明文を図解して理解できるようにしてあったり、文章の構成とか構造についての理解を深められるようになっていて、国語の教科も感覚として学ぶのではなくて、技術的にどのように読み解いていくのかということ学べる教科書だと思いました。

○伊藤教育長 新しい形の読み方を学ぼうという説明文、人物相関図とか、行動描写などのそれぞれの文のつくりについてですね。

○平井委員 どの教科書会社もとても丁寧に教科書づくりがされているなと思います。海老名市の小学校では光村の教科書を使用していますので、系統的に学習するならば光村がいいかなと思います。そして、教科書の最初に見開きで学習の見通しを持とうということで、1年間の学習の見通しが掲載されています。これは、生徒もそうですが、教師もこの一覧から指導の概要がつかめるとい点では、1年間の学習をある程度計画的に実施できるのではないかなと思います。学習の流れ、学習の窓などを構成されていると思いますので、小学校から中学校への学びがスムーズに進められると思います。学んでいくには適しているかなと考えています。

○伊藤教育長 今それぞれ委員から意見がありました。ほかに意見が出なかった東書とか教出もそれぞれ工夫がなされているのだろうなと思います。

先ほどの報告の中で私が着目したのは、学校意見については光村だけは「『本校の生徒の実態からみて適切である。』」ということで、これまでも中学校ではこれを4年間やっていただいて、教員たちの意見としては適切ということです。要するに海老名の子どもたちに合っているということなので、どこの教科書会社も検定を受けて、それぞれ工夫された素晴らしい教科書ではあるのだけれども、そういう意味で言うと、私としては学校意見が非常に大きいかなと考えているところがございます。要するに今まで使っていたものが良い、子どもたちに合っていると教員は捉えているということが学校意見としては特徴的だなと思っているところがございます。

ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、三省堂1票、教出0票、光村4票)

○伊藤教育長 結果、最多の4票を得ました光村を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、国語の採択についての審議を終了いたします。これまでも教育委員会で教科書学習会を行ってきて、その中で特徴的な意見を皆さんに出していただいております。事前にしっかりと検討してきた結果、今このような形で進んでいますので、よろしく申し上げます。

それでは続いて、中学校教科用図書、「書写」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いします。

○飛矢崎委員長 書写は、東書、三省堂、教出、光村の4者です。報告書2ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、文字文化コラム『文字のいずみ』のページが充実している。また、『生活に広げよう』で、生活の場で書写の学びをどう生かすのかについて考え、活動することにより、思考力・判断力・表現力を育めるよう工夫されている。

三省堂は、はがきの宛て名などを取り上げ、学習したことを社会生活に生かせる工夫がされている。また、『やってみよう』では、グループで新聞や情報誌をつくる活動を設定し、主体的・対話的に学習を行う工夫がされている。

教出は、『書式の教室』において日常生活との関連を重視した学習を行うことで、生涯にわたって活用できる「生きた書写力」と社会人としての教養が身につくように配慮されている。

光村は、主体的に学習できるように『考えよう』→『確かめよう』→『生かそう』という流れで学習が展開されている。また、別冊『書写ブック』を利用することにより、毛筆での学習が硬筆に生きるよう工夫されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○濱田委員 書写の教科書を使った授業を年間何時間ぐらい行われているのか、質問したいと思います。

○教育支援課長 これにつきましては事務局より回答いたします。書写の指導に担当する授業時数は、1、2年生では年間20時間程度、3年生は年間10時間程度となっております。

○伊藤教育長 ほかに質問はございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採択に向けて協議をしていきます。意見がありましたらお願いいたします。

○酒井委員 私はどの教科書も良いと思いましたが、特に三省堂は巻頭に自分の字をよりよくするという目標をしっかりと掲げてあって、書写の学習の目的がすごく明確になって

いると感じました。また、1年生のときに書く自分の氏名と学校名と、そのすぐ下に、3年生になって、また自分の氏名と学校名を書くところがあるので、この2つを比べることで、自分の字がどのように成長することができたのか、感じる事ができて良いと思いました。

○伊藤教育長 三省堂もそうですが、各者それぞれが本当に工夫されていますね。

○海野委員 光村は別冊の硬筆練習帳『書写ブック』がついているのですけれども、教科書の関連ページで文字の整え方などを確認することができ、毛筆の学習が硬筆に生きるよう工夫されていると思いますので、とてもいいと思います。

○伊藤教育長 教科書の関連ということで、先ほど国語の教科書は光村ということで採択したところでございます。別冊ブックは教育委員会としては今まではあまり推奨しておらず、それがどうなのかなという課題はありますけれども、飛矢崎委員長、中学生が別冊ブックを無くしてしまうようなことはございますか。

○飛矢崎委員長 別冊ブックも教科書なので、子どもたちは大切に扱っております。

○伊藤教育長 去年の小学校教科用図書採択を審議する中で、先生の意見として、別冊をつける子どもたちは管理することが難しいという話がありましたので。でも、今回は中学生ですからね。分かりました。

○平井委員 光村は、どこの教科書会社もそうだと思うのですが、国語の教科書に準拠した教材の配列がされています。そういう点では指導がしやすいのかなと思います。書写の中で季節のしおり1、2、3、季節の言葉を書いて味わおうということで、その中に古典の枕草子や平家物語などを行書で書けるように設けられています。そして、なぞり書きをして、親しみやすく、また、覚えやすくしているのもいいのかなと思います。今年度、新学習指導要領では豊かな文字文化に親しむという項目が設けられています。そういう点でも、多様な文字文化に触れさせるということで、各教科、学校、社会に生かすことができるように教材が配置されているのも良いと思います。

○伊藤教育長 意見の中にそれぞれの特徴、三省堂と光村の意見しか出ていないのですけれども、教出、東書についても、先ほどの委員長報告により特徴的なよい点を出されたところでございます。私自身はやはり小中学校での関連性が高いと、教員としては使い勝手が良い部分があるのかなと考えているところでございます。

それでは、ほかに意見はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、三省堂1票、教出0票、光村4票)

○伊藤教育長 結果、最多の4票を得ました光村を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、書写の採択についての審議を終了いたします。

それでは、続けてお願いいたします。次は中学校教科用図書、「社会(地理的分野)」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いします。

○飛矢崎委員長 社会(地理的分野)は、東書、教出、帝国、日文の4者です。報告書3ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、『みんなでチャレンジ』を設け、対話的な活動を通じて学習を深め、価値判断や意思決定を行える工夫がされている。また、『スキルアップ』が設けられ、情報に関する技能を養える工夫がされている。

教出は、興味関心が高まるような写真や図版などの資料を分かりやすく提示している。また、本編ページの最後に学習事項の定着と言語能力の育成が図られているコーナーが設けられ深い学びに繋げるための工夫が見られる。

帝国は、『小学校・歴史・公民との関連』コーナーが設けられ、小学校で学習した内容の確認や、他分野との接続ができるように工夫されている。また、見開き1ページで授業の展開が構造化され知識及び技能が確実に理解できるようになっている。

日文は、『深めよう』コーナーを設け、習得した知識を定着させるための工夫がされている。また、『チャレンジ地理』があり、自ら調べたり、議論したりする活動が充実している。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書の記載どおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○海野委員 帝国に関する報告の中に『小学校・歴史・公民との関連』コーナーがありましたが、調査員から具体的な説明はどのようにあったのでしょうか。

○飛矢崎委員長 調査員からは、教科書20、21ページにあります日本の領土の学習を例に挙げて、歴史と公民との関連した学習ができるような工夫が説明されました。

○伊藤教育長 教科書の欄外に書いてある領土確定の経緯やサンフランシスコ平和条約、沖縄返還、国際法、領土問題などが全部そうだということですね。

ほかに質問等がありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、審議に入ります。委員さん方からご意見等ありましたらお願いいたします。

○酒井委員 私は、帝国の教科書が良いと思います。各社、記述とか、表記とか、すごく工夫されていて、考えさせてくれる教科書になっていると思うのですが、同じように各社広げて見てみると、帝国の教科書は振り仮名がとても丁寧に振ってあって、漢字が苦手な生徒もいると思いますので、そういった生徒が自分で教科書をしっかり読むことができやすい教科書だなと思います。

○伊藤教育長 私も教員だったので、小学校高学年でも、例えば、社会は好きなだけでも、漢字が苦手なのが学習の障害になったり、教科書の文章が読めないというか、そこですごく抵抗感がある子どもたちもいました。帝国の教科書は、振り仮名がしっかりされていて、例えば「資源」などはいいのではないかと思うのですが、やっぱり振り仮名があったほうが解説しやすい子どもたちが中学生でも結構いると思いますので、面白い視点だと思いました。

○平井委員 中学校1年生にとっては、社会科が3分野に分かれます。そういう点でも、社会的ないろいろな難しい言葉が出てきますので、ページの下欄に歴史や公民、小学校との関連を示すコーナーがあるというのは、小学校とのつながりの意識が持てて、生徒にとって良いのではないかと思います。帝国の教科書です。

○濱田委員 私も帝国の教科書なのですが、目次を見ていただくとよくわかるのですが、章とか節というふうに区切られていまして、その節あるいは章の中の学習を振り返ろうというコーナーがあるのです。そのコーナーが、知識、技能の観点と思考力、判断力、表現力の観点、そのいずれの課題もバランスよく見開きページに配置されていて、非常に読みやすいと感じました。例えば44ページとか64ページなどです。

○海野委員 私は、どの教科書もとても資料が豊富で、子どもたちにとってとても勉強になると思います。ただ、その中でも帝国はバチカンとディズニーランドの広さとか、ドローンによる配達の実現など、掲載されている写真や資料が特色を的確に捉えて、子どもたちがとても興味をそそられるだろうと思います。

○伊藤教育長 大きさとかは、子どもたちがわかりやすいような表現で比較した丁寧な記載があるということですね。

○海野委員 はい。

○伊藤教育長 社会（地理的分野）ですと、例えばグラフとか資料から様々なことを読み取るというのも資料の扱いでとても良い勉強になるのですけれども、そういう意味では、東書はとても良い資料がいっぱい載っているとは思いますが、でも、どこの教科書も資料がしっかり載っていて、特に、帝国は数値の資料がすごく豊富に載っていると感じるところでございます。

それでは、社会（地理的分野）は採決してよろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

（東書0票、教出0票、帝国5票、日文0票）

○伊藤教育長 結果、最多の5票を得ました帝国を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、社会（地理的分野）の採択についての審議を終了いたします。

それでは、次に移らせていただきます。中学校教科用図書、「社会（歴史的分野）」の審議に入ります。飛矢崎委員長から報告をお願いいたします。

○飛矢崎委員長 社会（歴史的分野）は、東書、教出、帝国、山川、日文、育鵬社、学び舎の7者です。報告書4ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、1単位時間の学習では『学習課題』を掲示し、学習の終わりに、基礎事項を確認する『チェック』と、要約や説明をする『トライ』の2段階の学習課題を解決することで、学習内容の定着を図る工夫がされている。

教出は、各節の始めに問いを立て、節の終わりに問いに対する考えを説明する学習課題を明示し、歴史の流れを理解する工夫がされています。また、小学校の既習人物にマークをつけることで、より理解を深められるような工夫がされている。

帝国は、各章に『タイムトラベル』というイラストがあり、その時代を視覚的に捉えやすくする工夫がされている。また、各章末には、『多面的・多角的に考えてみよう』など、学習を深めるためのページが充実している。

山川は、各章の冒頭に世界及び日本の年表と関連する資料が掲載され、学習範囲の全体像を捉えやすくしており、歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に理解できるような工夫がされている。

日文は、学習課題の理解を深めるため、歴史的な見方・考え方を働かせる問いを『深めようコーナー』として設け、習得した知識を定着させ活用させることで、思考力・判断力・表現力等の向上を図る工夫がされている。

育鵬社は、日本の伝統文化を学ぶ教材が豊富で、歴史に対する愛情が育まれるように工夫されている。また、『なでしこ日本史』などのコラムなどにより、歴史を多面的・多角的に見る見方が養われる工夫がされている。

学び舎は、詳しく読み取れる大きく鮮明な図版・資料を配置し、生徒の興味関心を引き出す印象的なタイトルの工夫がなされている。また、主体的な学習を促すために太字をなくし、ルビを振るなどが、想定される学習学年に即して編集されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書の記載どおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、社会（歴史的分野）について協議をいたしたいと思っておりますので、それぞれよろしくお願いいたします。

○濱田委員 帝国の教科書の中にいくつかのコーナーがありますが、その中で、『多面的・多角的に考えてみよう』というコーナーが144ページとかに出ています。当時の人々の考え方や立場に沿って話し合いをしたり、考察を深めるための工夫ができているのだと思うのです。やはり当時の人の考え方をその歴史の中でも考えてみるというのは1つの良い試みだと思います。

○海野委員 どの教科書もSDGsについては触れられていると思うのですが、特に東書は巻頭で「歴史に学ぶ持続可能な社会の実現に向けて」というテーマを設定して、その辺に関連した内容も豊富で、歴史を学習することによって新しい感覚を身につけて、未来に目を向けるように工夫がされていると思いました。また、東書は各ページ下に年表スケールを示されているので、どの時代の学習を行っているか、常に把握できるようになっていました。

○伊藤教育長 確かに教科書の下に今はどの時代の話ですということが分かるよう、年表

のような形で示されているということですね。

○酒井委員 私は帝国が良いと思いました。東書も分かりやすく問題提起があつて、ここについて考えてみましょうなどの問いかけがたくさんありますが、帝国も同じように問いかけが各ページにありますし、先ほどの地理の教科書と同じですけれども、振り仮名が丁寧についていまして、やはり発展的なことを考えるためには基礎的な事項がしっかりと頭に入っていないと難しいと思うのです。なので、基礎的な知識がまずは身につけやすいような教科書と考えると、帝国が適切かと考えます。

○伊藤教育長 振り仮名がついているということですね。国語の力が学習の障害にならないようにという意味で言うと、確かに帝国はその観点を取り入れていると感じられる部分が多いのですよ。私が高校の頃の歴史の教科書は山川だったのですが、字が小さかったのです。あまりに小さい文字で書かれていると、高校生ぐらいたと問題ないのかもしれませんが、中学生の教科書としてはどうか。そういう問題はありますね。

○平井委員 私は、小学校と中学校の繋がりをどうしても考えてしまうのです。どのように子どもたちがスムーズに学習に入っていけるのかなと考えたときに、帝国の教科書は各時代の導入のところに『タイムトラベル』という項目があります。2ページにわたって絵があつて、それに対する課題が設定されていて、そういう中から、子どもたちが小学校の学習を振り返りながら新しい学習に入っていくことができるのです。視覚に捉えるという観点は、小学校から中学校に繋がった子どもたちにはまだまだ必要性が大きいのかなと思いますので、子どもたちの立場に立って考えますと、帝国の教科書が良いかと思います。

○伊藤教育長 それぞれご意見いただいたところなのですが、歴史の教科書については社会的にみても様々な意見があります。小学校のときもそうですけれども、様々な歴史の事実をどのように解釈するかとか、どのような意見を持つかとか、それは恐らく授業を受けた子どもたちが持つものであつて、注釈的にこのように捉えるべきだとか、このように捉えるのが正しいとか、そういうものはあまりないほうが私自身は教科書としては良いのかと思っているのです。皆さんで歴史の教科書について何か考えやご意見があつたら出していただきたいと思います。

酒井委員が言うように、子どもたちが使うのでルビがきちんと振られているとか、そういう観点で教科書を選ぶことはとても大事だと考えていまして、子どもたちが学習に使うのにこういうページがあるから学びやすいとか、こういう工夫があるから子どもたちが自分から学習を進められるとか、そういう観点でより良いものを選ぶのが良いかと思うので

す。要するに子どもたちが学習しやすいものを我々も考えなければいけないなど私としては考えているところなのです。何か意見がありましたらお聞かせいただければと思います。

○酒井委員 子どもを育てていると、やはり親の意見とかがすごく出過ぎてしまっていると思うときもあるのです。子どもは自分自身で考える力が幼いこともあるので、どういうものを与えるか、どのように考えるための要素を与えていくのかというのはすごく難しい問題だと思うのです。なので、なるべく色づけしていない、そのままの事実に触れるようにして、それについて、では、このように考えるとか、いや、私はそのようには考えないというふうに自分たちで得た材料から考えていくことがこれからは必要になってくるのではないかなと思います。

○伊藤教育長 ほかはよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 そのような形で、去年の小学校の歴史の教科書を採択した時もそうだったのですけれども、中学校の歴史も子どもたちが、例えば、さきほどのSDGsなどのテーマと絡めて、みんなで話し合っていくことができるようなものが望ましいのかなと思います。そういう意味で言うと、教員の教え方も本当にフラットに、子どもたちを支援するような教え方とか、または教科書を基に正しい知識を与えるようなことがとても大事だと感じたりするところがございます。

ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

(東書1票、教出0票、帝国4票、山川0票、日文0票、育鵬社0票、学び舎0票)

○伊藤教育長 結果、最多の4票を得ました帝国を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、社会(歴史的分野)の採択についての審議を終了いたします。

それでは、中学校教科用図書、「社会(公民的分野)」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長をお願いします。

○飛矢崎委員長 社会(公民的分野)は、東書、教出、帝国、日文、自由社、育鵬社の6

者です。報告書6ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、1単位時間が『導入資料』→『学習課題』→『本文』→『チェック&トライ』の流れで構造化されていることや、模式図やイラストなどの資料や、概念の理解を深められる問いが設定されており、主体的で対話的な深い学びが実現できる工夫がなされている。

教出は、『学習課題』、『読み解こう』、『確認/表現』、『問い』などのコーナーにより、生徒が主体的に学習できるよう配慮されている。学習に不可欠な写真・イラストなどの資料が豊富に掲載され、出典と併せて視覚的に捉えやすく配置されている。

帝国は、『学習の前に』が設けられており、導入の部分でイラストを通して、生徒の興味関心を引き出せるような工夫がされている。また、『アクティブ公民』や『技能をみがく』など、生徒が主体的・対話的で深い学びが実現できるような工夫がなされている。

日文は、『学習の始めに』、『アクティビティ』、『チャレンジ公民』など、単元を通して考える方法を身につけられる工夫がなされている。また、全て見開きのページで、生徒がポイントを意識して学習活動に取り組むことができる工夫がなされている。

自由社は、各章の終わりに、『学習のまとめと発展』があり、学習上の困難が生まれなような配慮がされている。また、『学習の発展』では、単元で学んだ情報を活用できるような工夫がなされている。

育鵬社は、各章の導入部から『学習の入り口・これから』を設け、生徒が意欲的に学習できるように工夫されている。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、『学習を深めよう』、『やってみよう』、『TRY』などの言語活動が設けられている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書の記載どおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、委員さん方から意見等ありましたらお願いいたします。

○酒井委員 私は、東書の教科書が良いと思います。特に自由というものについて考えさせられることが多いと思うのです。個人の自由というものが与えられているからこそ、いろいろな責任があるのだということを感じるような事柄がすごく多いと思うのですけれども、東書の自由権のところ、特に自由というものがまだ制限されている国がほかにあるのだということを知ることができる箇所があります。自由がないというのは、今の中学生

にとってはあまり感じる事柄だと思っております。あつて当たり前のことだし、基本的人権というものも尊重されて当たり前だというふうな日本で育っているのです、ぜひそうではない国や地域があるということ子どもたちに学んでもらいたいと思ひまして、東書の教科書が子どもたちに適切だと私は考へます。

○伊藤教育長 酒井委員は、自由権の考へ方という観点から、東書が良いと思つたわけですね。分かりました。

○濱田委員 私も東書の教科書は、導入の部分で非常に広い視野を持つて現在の状況を説明しているところが非常に良いと思ひますし、公民的分野はどの教科書もいろいろ特徴が出ていて良いと思ひますので、一番題材が良いのは東書の教科書だと思ひます。帝国の教科書も『アクティブ公民』、『Yes/No』のコーナーで社会で見られる課題解決について選択や判断に取り組む活動をしていますし、日文においても、学習導入ページで單元ごとに見方・考へ方を漫画で示しているのですね。具体的な場面が理解できるように工夫されているところが特徴的ではあると思ひますが、バランス的には東書が一番良いかと考へました。

○平井委員 公民を初めて学ぶ1年生のために、公民を学ぶに当たつてという1ページを設けてくださっています。タイトルは各会社によってそれぞれ違ひますが、子どもたちにとってはどんな勉強をするのだろうと、少し不安があつたり、わくわくしたりという中で、ああ、こんな内容なのだなという、関心が得られるとても良い出だしだろつと思ひます。

その中で、私は帝国が良いと思ひています。学び心を引き出す道具として、見開き2ページで『学習の前に』の設定、そして発問によつて学習内容のイメージ化を図るよう工夫されているという点が良いと思ひます。そして、資料はそんなに多くは載せていないけれども、迫力のあるワイドな写真、生徒に身近な事例が取り上げられていますので、そういう部分ではスムーズに学習に入つていけるのではないかなと思ひます。

○伊藤教育長 今、東書、帝国ということでお話をいただいているところですが、ほかにはいかがですか。

○海野委員 平井委員からもお話がありましたように『学習の前に』では、子どもたちが実社会に関心を持つようイラストを飾ることによつて、学習する内容をイメージすることができるのではないかなと思ひます。具体的な例として、人権の分野では、障がいがあつても働ける工場として川崎市が紹介され、企業、経済の分野では、電気自動車の工場で横

浜市が掲載されているので、地域に沿っているなど思いました。あと、法律ができるまでの表がほかの教科書よりも分かりやすく、生徒たちが理解しやすいのではないかなという印象を持ちました。

○伊藤教育長 お二人が東書について、お二人が帝国についてそれぞれ意見をいただきました。

各発行者、本当に様々な工夫がなされているところなのですが、1つは公民的分野、先ほど委員長の報告からもあったのですが、学校意見の中で、東書については、『本校の生徒の実態からみて適切である。』ということで、教科書を使用している現場の教員は、東書の教科書は自分の学校の生徒たちの実態というか、学力等から非常に使いやすい教科書だったという意見であることは把握できます。また、先ほどの地理的分野もそうでしたが、東書は資料等も非常に充実しているし、これからの中学校の公民の学習等を考えたときに、やはり様々な問題を自分たちで解決して、自分たちの社会をよりよくしようという歩みみたいなもの、その問題解決の学習がここでなされることが公民の学習の1つの意義かと思います。自分たちの様々な問題、国際的な問題も含めて、先ほどSDGsの話もありましたけれども、東書もそのような形で出ています。私は全体的に見て、海老名子どもたちには東書の教科書で公民を学んでほしいと思うところでございます。

ほかに意見はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶものあり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書3票、教出0票、帝国2票、日文0票、自由社0票、育鵬社0票)

○伊藤教育長 結果、最多の3票を得ました東書を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、社会(公民的分野)の採択についての審議を終了いたします。

続いて、中学校教科用図書、「地図」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いいたします。

○飛矢崎委員長 地図は、東書、帝国の2者です。報告書8ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、一般図、基本資料、テーマ資料、統計資料となっていることで、課題解決的な学習に活用できるように構成されている。また、歴史関連ページ、公民関連ページによっ

て、地理だけでなく歴史や公民の学習でも活用できる資料が掲載されている。

帝国は、問い『地図活用』を全131問設置し、「社会的な見方・考え方」を働かせた学習に活用できるようになっている。また、生徒の興味関心を喚起させる工夫として、世界の各州には、イラストを配した鳥瞰図があり、地域的特色を視覚的に捉える工夫がなされている。

報告は以上です。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○酒井委員 この2者の地図帳、まずサイズがぱっと見で違うのですけれども、調査会で大きさについての報告というものは何かございましたか。

○飛矢崎委員長 調査員からは、東書はA B判で、社会（地理的分野）の教科書と同じサイズになっているというような報告がありました。帝国は、調査員からは、大きさについての報告は特にありませんでした。4市合同の調査会の調査報告書には、A 4判で必要な資料を探しやすいという記載がございました。

○伊藤教育長 確かに机上に2冊並んでいますが、地理の教科書はA B判でした。それと、帝国はA 4判ということなのですけれども。

○海野委員 先ほど社会（地理的分野）の教科書は採択されたのですけれども、社会（地理的分野）の教科書に掲載されている地図と同じ色合い、同じ表記をされている帝国のほうが生徒にとっては視覚からして使いやすいのではないかと思います。

○濱田委員 私も帝国の地図でちょっと面白いなと思ったのは、世界の各州というところで、ヨーロッパ州とか、アメリカ州とか、北米、南米とか、州の一般図があるのですけれども、その地図の中に日本列島が透かしで入っているのが特徴的だと思うのです。例えば45ページ、60ページ、あるいは58ページなんかもそうなのですけれども、日本列島を対象地図の中に同緯度と同縮尺で配置しているのです。そうしますと、日本の都市と世界の都市の緯度が比較できることになろうかと思いますし、例えばロンドンが札幌よりも相当北にあるとか、そのような特徴的なことが分かると思いますし、位置関係も理解できますし、その気候、風土についても、地図を見ながら想像できるのではないかと思います。帝国の地図が良いと思いました。

○伊藤教育長 そうですね。帝国の世界地図には全部日本が同縮尺で、南半球になると反対と言うか、方向が逆になって載っています。でも、常に日本列島がそこに同じ大きさで

載っているのですよね。位置関係。そういうのは面白いと思います。小学校教科書も帝国と東書の2者の中から採択しましたが、今までも帝国の地図を使って学習して、教員としても帝国の地図で授業をしたという方が多いのではないかと思います。なので、この色や体裁に見慣れていると思うのです。皆さんはいかがですか。

○平井委員 見慣れています。

○濱田委員 そうですね。

○伊藤教育長 でも、資料として掲載されている情報をみると、昨年ご審議いただいた東書の教科書もすごく面白い資料でした。そして今回、中学校の教科書も東書は本当に教科書づくり、資料づくりが丁寧で、子どもたちが課題を見つけることができるような地図でもあるかなと思っているところでございます。

また、生徒からしたら、初めての地図の教科書なので、地図帳といえばこの色、体裁だという感覚はないのかなと思うところでもあります。ただ、海野委員、濱田委員の意見を鑑みると、やはり帝国の地図が総合的にみると良いかなと感じるところでございます。

ほかにはいかがですか。

(「なし」呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、帝国5票)

○伊藤教育長 結果、最多の5票を得ました帝国を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、地図の採択についての審議を終了いたします。

それでは続きまして、中学校教科用図書、「**数学**」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長をお願いします。

○飛矢崎委員長 数学は、東書、大日本、学図、教出、啓林館、数研、日文の7者です。報告書9ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、『深い学び』のページでは、多様な考えを説明し伝え合う「対話的な学び」の場面を設定することで、「深い学び」を実現できるよう構成されている。また、インクルーシブ教育の観点から、見やすく、読みやすい文章に構成されている。

大日本は、自らの気づきや疑問を基に課題を設定し、それらを解決していける力を育む工夫がなされている。また、教科横断的な学習として、理科と関連した『震源から何km離

れているかな』などが掲載されている。

学図は、単元の初めの『question』を設定し、問題を考えていく上で「何ができるか」「できることをどう使うか」の見通しがたてやすいような工夫や配慮がなされている。また、『確かめよう』などには、身近な題材や興味を持てる題材を数多く取り上げている。

教出は、学習の必要性を実感できる課題や、職業での数学の活用が書かれた『数学の広場』が設けられている。また、『Let's try』など学習の過程で生ずる生徒の疑問を取り上げ、それを解決したり、新たな問いを見いだすような主体的な学びにつなげる工夫がされている。

啓林館は、『説明しよう』、『話しあおう』、『まとめよう』では、自分の考えを整理して、他の生徒と自分の考えを比較して考えたりすることができるような工夫がなされている。『章末問題』では、振り返って学習できるよう構成されている。

数研は、各章の『Q』において、対話している場面を掲載することで、生徒から活発な意見を引き出す工夫がされている。また、探究ノートでは、本冊の既習内容を確認しながら『探究』、『課題学習』で学びを深められるように工夫されている。

日文は、生徒の学習上の困難さへの対応について、新しい問題の解き方を、既習事項と関連づけて例示した『次の章を学ぶ前に』と『確かめ』が記載されている。『数学のたんけん』では防災や福祉に関する内容を取り入れている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○海野委員 報告書の中に、教出で職業での数学の活用という話がありましたが、調査員から具体的に説明はありましたか。

○飛矢崎委員長 調査員からは、1年生の教科書278ページにあります、気象予報士の仕事に数学が活用されているような例を挙げておりました。

○濱田委員 現在、学図の教科書を使っているということですが、それに対しまして学校からの何か意見がございましたでしょうか、お願いいたします。

○飛矢崎委員長 学校意見を集計した結果、項目の中に「『本校の生徒の実態からみて適切である。』」という観点の意見や、学図の教科書は全7者のうちで最も多く報告書にも特徴的な観点として記載されておりました。

○伊藤教育長 学校意見については先ほどの報告書の中でまとめていただいているので省

略されていますけれども、そのような形で載っていることは確認できますよね。学図は『本校の生徒の実態からみて適切である。』ということで載っております。

それでは、数学の教科書について皆さんの意見をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○酒井委員 私は、学図の教科書が良いと思っております。例えば『確かめよう』というコーナーが各章末についているのですけれども、例えば34ページ、單元ごとにどこのページの例題何番からの出題なのかが明確になっています。これが各章の最後についているのです。この問題をやって、分からない部分があったら、対応の番号のすぐ下についている例題に戻ればやり方がすぐ分かるようになっているのです。大体分かったつもりで問題を解いたのだけれども、できなかつたというときに、どこに戻ればいいのかというのが明確なのは、子どもにとって、すごく学習しやすいだろうと思いますので、学図の教科書が良いと思いました。

○平井委員 私も学図が良いと思っています。小学校では学年が進むにつれて理解の差が出てきます。そういう点では、中学校に行って「算数」から「数学」という言葉に変わりますので、子どもたちは少し身構えてしまうのかなと思うのです。そういう点では、身近な題材から単元の導入を行うように生徒の興味関心を引き出すという形で教科書の単元構成をしてくださっていますので、そこが良いと思います。

どこの発行者でもそうなのですが、ノートの使い方が細かく示されていて、小学校のノートの取り方を振り返りながら、自分なりのノートの取り方をつくっていくという点でも参考になるのではないかなと思います。

また、問題解決の手順が示されていて、自らの力で解決できるよう題材が工夫されて、主体的な学びを促す学習内容の構成がされていると思います。

私がこの教科書を見て何より個人的に良いと思うのは、紙面に余白があることです。その余白がある中でも、学びの内容やポイントがきちんと盛り込まれているのですが、問題解決をしていくときにゆったりと子どもが取り組めるのではないかと思います。あまり文字を詰めて書いてあると子どもたちは敬遠してしまうけれども、そういう余白を見ながら、ちょっと目先を変えて問題解決に当たっていくという部分からも、この紙面構成は良いと思われます。

○伊藤教育長 学図の紙面構成が良いということですね。とても大事な観点ですね。子どもたちにとって、視覚的に情報が入ってくると分かりやすいので。

海野委員はいかがですか。

○海野委員 生徒たちにとっては、数学という言葉で身構えてしまうと思いますので、1年生の教科書を開いたときに内容に入りやすいかというのは大事なことではないかと思えます。その中で、各発行者でそれぞれ工夫されているのですけれども、啓林館は方針というか、1ランクアップした教科書をつくられているという印象でした。学図とか教出は言葉遣いが分かりやすいように工夫されていると思いました。

○伊藤教育長 数学ということで、海老名市は学図を前回は使用しているということなのですが、教員たちは使った中で、さっき学校意見を濱田委員から質問させていただきましたけれども、学校で教えている教員たちは、学図が生徒の実態に合っていて使いやすいという意見です。また、平井委員、酒井委員それぞれからもご意見をいただいたところですので、審議はこの程度で良いかと思うのですけれども、よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、大日本0票、学図5票、教出0票、啓林館0票、数研0票、日文0票)

○伊藤教育長 結果、最多の5票を得ました学図を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、数学の採択についての審議を終了いたします。

続いて、中学校教科用図書、「理科」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長をお願いします。

○飛矢崎委員長 理科は、東書、大日本、学図、教出、啓林館の5者です。報告書11ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、学習する過程をフローチャートで示し、探究するために必要な資質・能力が育成できるように配慮されている。また、主体的な学びを引き出す導入や、対話的な学びを喚起する対話の具体例などが適切に配置されている。

大日本は、科学的な知識・教養を日常生活や社会とつなげて身につけられるような工夫がされている。また、観察・実験は目的や着目点を分けて簡潔に表現されており、見通しを持って探究活動が進められるよう構成されている。

学図は、観察・実験の手順が丁寧に記述され、探究活動を実施しやすい内容になっている。また、学びを振り返ったり、身のまわりに働きかけていく「主体的・対話的で深い学

び」を実践しやすくなっている。

教出は、『探究の進め方』では、有効数字や誤差などの意味が明確に記されており、実験をする上での大切な要素の意識づけがされている。『ハローサイエンス』などのコラムでは、日常生活や社会課題に対する関心が高まるように配慮がされている。

啓林館は、単元導入に掲載されている写真は、興味関心を引き出すインパクトのあるものが採用され、どのようなことを学ぶのかを生徒自身が想像できるように工夫されている。また、身近な問いから学びが始まり、見通しを持って学習できるように工夫されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、協議に入りますので、よろしく申し上げます。

○濱田委員 理科ということで非常に幅広い内容を網羅していらっしゃると思いますけれども、啓林館の教科書の中に科学コラムというのがあります。こちらは仕事の関係や、防災や減災、料理の関係まで入っていきまして、身近な生活の学びにつなげるコラムになっております。学びに向かう力、あるいは人間性等を涵養するためにも、そのような工夫や配慮がなされているなと思えました。1年生の教科書で言うと、仕事ラボというのが83ページとかに出ていたり、防災・減災ラボというのが85ページに出ていたりしますので、そういうところから、やはり理科、あるいは科学が身近なことにつながっていくことが実感できるのかなと思えました。

○伊藤教育長 身近な生活とか、自分の生活につながっているような扱いがあるということでございます。

○酒井委員 私も啓林館の教科書が良いと思えました。濱田委員がおっしゃっていたように身近なことに関連して考えられるようなコラムが多くあるということもそうですし、巻末の索引が細かく分類された形で載っております。子どもが理科の問題を解いたりする中で、この言葉って何だったっけ、となってしまったときに、索引が充実していると、そのページをすぐ探せて、そこの部分を読んで、また学習するというふうに、わからないものを検索することができるとうごく勉強しやすいと思うのです。なので、内容も充実しているし、作品もすごく充実しているの、啓林館が良いと思っております。

○伊藤教育長 索引が充実しているというのは初めて聞いた視点だったので、少し、今、見えています。索引に出ている言葉の数がすごく多いですね。理科の教科書、私も何回か採択していますが、索引の充実は初めてのご意見でした。子どもたちが学習するとき、言葉がわからなくて、戻って調べたりすることは確かにあります。

○海野委員 どの教科書も、サイエンスという面ではとても内容が充実されていると思いました。中でも啓林館は単元導入の場面で、先ほど報告書にありましたけれども、ダイナミックな紙面は子どもたちのサイエンスに対する理解、興味がすごく引きつけられる、興味を持たせるという点ではとてもすばらしいなと思いました。また、単元の終わりに広がる世界というのがあるのですが、学習した内容が社会や未来に向けて広がって行って、さらに子どもたちの探究心を膨らませることができる内容ではないかと思います。

また、細かいのですけれども、印象に残ったものとしては、1年生では水晶に映るヒマワリとか、2年生では天気に関する前線の構造などが出ているのですけれども、その内容がすごくわかりやすく、子どもたちにとって印象に残るのではないかと感じました。

○平井委員 私も啓林館の教科書に魅力を感じました。それは、理科は実験や観察などがあって、楽しみもあるのですが、やや苦手とする子どもたちもいますので、中学の理科はこうなのだなどひと目で入っていけると良いと思うのです。そういう点からは、1、2ページの写真は本当にインパクトがあって、えっ、これは一体何だろう、まずそこから考えて、どのようにこの写真を見ていったらいいのだろうかというところから入っていく。まさしく未来に広がるサイエンスとタイトルがついているように、何か不思議な世界に入っていけるのかなという印象を持って、子どもたちがわくわくするのではないかなと思いました。

単元導入に掲載されている写真は、生徒の学びの動機づけとなっていて、把握する力を育てる構成となっていて、手順が細かく見開きで示されているのが良いかと思います。特に学び方もきちんと丁寧に書いてありまして、導入、課題、計画、予想、観察、実験、結果、考察、まとめ、学習の終わりにということで、観察、実験等の手順がしっかりと書いてあるのも良いかと思います。

また、見開きで上下に、物質の溶け方など、順を追って変化の様子を取り上げていて、写真でも示していて、変化がわかりやすいという点でも良いと思いました。

1年生の教科書は、130ページから137ページの7ページにわたって実験器具の取扱いを丁寧にまとめてくださっています。小学校からの振り返りという点で、新しい内容も入っ

てくると思いますが、それがまとまって掲載されているのは非常に良いと思います。これからの実験はこのようにしていくのですよというところで、きちんと説明が取れているし、子どもたちの振り返りなどにも、この7ページの間で見れば良いという紙面づくりも良いと思いました。紙面もすっきりしていて見やすいですし、子どもたちが実験をしていく中では活用しやすい構成になっているのかなと思います。

○伊藤教育長 4名とも啓林館についてご意見をいただきました。教育支援課長、今、小学校の理科の教科書は学図でしたっけ。

○教育支援課長 小学校で使用している教科書一覧は資料55ページにございまして、理科は学図でございます。

○伊藤教育長 実を言うと小学校の教科書は、過去に啓林館から学図に採択替えをしたことがあります。そのときは海野委員もいらっしゃったと思うのです。その時から時間が経って、今回は中学校の教科書ですが、啓林館はすごく紙面にインパクトが出ていて、今までであった理科としての教科書のつくりプラス、目に入るような写真などの資料もとても良くできていて、子どもたちにとって、この教科書で理科を学ぶのは本当に楽しいだろうなという感想を持ちました。また、様々な実験とか、これまで培った力を表現できているという点は、皆さんの意見を聞いて、私自身もそう思ったところでございます。

ほかにご意見はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、大日本0票、学図0票、教出0票、啓林館5票)

○伊藤教育長 結果、最多の5票を得ました啓林館を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、理科の採択についての審議を終了いたします。

ここで、午前の部は終了したいと思います。午後については1時から、音楽(一般)から引き続いて採択を進めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(休憩)

○伊藤教育長 それでは、午前に引き続いて、令和3年度使用中学校教科用図書の審議に入りたいと思います。

次は、中学校教科用図書、「音楽（一般）」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いします。

○飛矢崎委員長 音楽（一般）は、教出、教芸の2者です。報告書13ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

教出は、『話し合おう』を通して音楽表現に対する思いや意図を主体的に考えられるよう工夫されている。『学びのユニット』によって、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3観点バランスよく構成されている。

教芸は、伝統芸能や民謡などは、実際に地域の祭りや芸能に携わる中学生を紹介することにより、生徒が自分たちの住む地域にも目を向けられるよう工夫されている。また、クラシック音楽やポピュラー音楽など多彩なジャンルの作品が紹介されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告に対して、ご質問等ありましたらお願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 それでは、協議に移りたいと思いますので、それぞれご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

○海野委員 それぞれの発行者とも、クラシックに始まり、さまざまなジャンルを取り上げられて、魅力ある教科書になっていると思います。

中でも教出は、紙面が、自然、文化、日本語の美しさをより感じられるように工夫されていると思います。鑑賞面においても、想像を豊かにする紙面となっていて、ビバルディの四季の場面の情景や描写のことや、オペラ「アイダ」の野外劇場でのダイナミックな斜面や説明等は、子どもたちにぜひ参考にしてもらいたいなと思います。また、舞台芸術面では、日本や西洋、アジアの舞台を一望できるように工夫されているのではないかと思います。

○伊藤教育長 ほかにはいかがでしょうか。

○平井委員 どちらの会社もすごく丁寧につくられていて、また、それぞれの会社の特徴も出ていると思います。中学校の音楽は1年生で45時間、2、3年生で35時間ですが、とても少ないと感じます。私は音楽とか美術、創造的なもの、芸術的なものにも時間をかけてほしいという思いが強いものですから、これだけの教科書を週1時間の中で学ばせるということは非常に残念というか、せつかくこれだけ中身があって、内容が豊富なのに少し

もったいなさを感じてしまいます。それだけに、1時間を指導の中で大切にさせていただきたいと思います。

そういう中で、小学校の教科書は教出です。小中学校の連携という形では、そんなに大きなものはないかと思うのですが、いろいろな形ですと見てきて、教育出版は、ちょっとした細かいところですが、写真なども、とても丁寧な使い方をしてくださっていると思います。そういう点では子どもたちの視覚に訴えて、情操を育む中では、良いと思います。

それから、今回まなびリンクというものが設けられて、動画、音声、ワークシートというような形で、いろいろな形でウェブサイトを通して学べるということも大きいのかなと思っています。

ちょっとしたところですが、ギターの運指などは、指の形が分かるような写真が載せられていたりすること、楽器のリコーダーも、小学校とのつなぎでアルト、ソプラノのリコーダーから指導に入ったりというところ、そういうつなぎの面でも構成に大変工夫がされているのではないかと思いますので、私は教育出版で指導していても良いかと思います。

○伊藤教育長 海野委員、平井委員は教出が良いのではないかとということですが、ほかにご意見はございますか。

○酒井委員 私は教芸のほうが良いと思っておりまして、例えば、変声期に関する記述、これはどちらも載っているのですが、教芸のほうが、より子どもに寄り添っているように感じるのです。小学校のときは出ていた音がだんだん出なくなっていく男の子が多いと思うのですが、その出しづらいときは無理せずに、自分の出しやすい音階を歌うことで良いのだよと書いてあるのは、すごく寄り添ってもらっているなという気持ちにもなりました。その前のほうにあるリズムを自分たちでつくるというコーナーがあるのですが、そういう音で遊ぶという要素があると、実際に声を出して歌うのは苦手でも、そういう音楽の取り組み方ができるというのは楽しそうだなと純粋に思いました。

あとは、各教科書、後ろのほうに楽典の知識に関するコーナーがあるのですが、ここの整理の仕方が、私は、教芸のほうが整理されていて理解がしやすいのではないかと思います。

○濱田委員 私も教芸のほうが、生涯にわたりまして音楽文化に親しめるような教材であって、鑑賞教材のジャンルが非常に豊富であると思いました。特に中学校の2、3年の下の60ページから63ページにポピュラー音楽のジャンルが海外編と日本編で出ておりました。

て、こういうところで今の音楽の体系みたいなものも理解できるし、学習を進める上でも、有益な写真や譜例等が多く、資料も豊富であると思います。

あと、ワークシートがちょっと工夫されていて、1年生の47ページなどにも、すぐ使えるようなワークシートが出ていたりしますので、こういうところが教芸のほうがいいかなという感想を持ちました。

○伊藤教育長 ありがとうございます。

今まで中学校は教出、小学校も教出で、海老名の音楽の指導の教科書は教出でやってきたところがあって、小学校は現在も教出ですが、中学生がこれから音楽に親しんで、一生涯、音楽や音に親しんでいくことを考えると、教芸はジャンルがとても広くて、子どもたちが音楽に接するさまざまな機会を与えているのではないかという印象を受けています。

そういう意味で、学校の意見の中にも、教芸は歌唱指導等が分かりやすいとか、工夫がなされているということが出ているのが、これまでとの違いかなと思っているところでございます。

海老名市としては、ここで教芸を採択した場合小学校と中学校で扱う教科書は変わりますが、来年度からの4年間は、教芸のほうで中学校の音楽指導を進めていくことがより良いと判断するところでございます。

ほかにご意見等はございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(教出2票、教芸3票)

○伊藤教育長 結果、最多の3票を得ました教芸を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、音楽(一般)の採択についての審議を終了いたします。

続いて、「音楽(器楽合奏)」についての審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いします。

○飛矢崎委員長 音楽(器楽合奏)は、教出、教芸の2者です。報告書14ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

教出は、『学びのねらい』をスタートとし、見開きページの学習を進めることでゴールまでの学習を見通せる構成となっている。また、器楽演奏の基本を写真、イラストを多用

し分かりやすく解説している。管楽器、弦楽器、打楽器の順に各楽器が配置されている。

教芸は、様々な楽器を分類し『楽器の図鑑』として分かりやすく紹介されている。また、リコーダーの教材は、学校の実態に応じ、アルトリコーダーの楽譜だけでなくソプラノリコーダーの楽譜も表記されている。さらに、リコーダー、ギター、和楽器、打楽器の順に各楽器が配置されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、協議に入りたいと思いますので、ご意見をお願いいたします。

○海野委員 器楽ですが、世界の楽器を多数取り上げていて、中でも和楽器の取り上げ方が奏法まで詳しく書かれているのは、両者ともすごく印象的です。今までこのように詳しくは掲載されていなかったのではないかなと思います。琴の爪の当て方とか、三味線のばちの持ち方、構え方などまで詳しく掲載されているのは、とてもうれしく思いました。

また、篠笛と締太鼓の合奏の楽譜もついていたりして、本当に和楽器を重視していただいているのだなということが分かります。その点で、両者とも工夫されているということにはうれしく思います。

○伊藤教育長 こういう日本の伝統のものがしっかり載っているのは良いですね。

○海野委員 もう1点いいですか。えびなっ子スクールでお琴の演奏の関係で学校に行かせていただいているもので。きっと小学校6年生の子どもが中学校へ行って、「さくらさくら」の楽譜もそうですが、お琴の説明を見たら、自分も経験していて良かったと思ってもらえるかなと思って、すごくそれは感じました。

○伊藤教育長 今年はこういう状況でえびなっ子スクールはないのですが、子どもたちがサマースクールで海野委員等にお琴を教えてもらって、その子どもたちが中学へ行って、器楽の教科書にお琴が出てきたら、あっ、これだ、と思うだろうということですね。

○海野委員 そうですね。

○平井委員 教室の中で、何が同じで何が違う、吹く楽器と弾く楽器の音の出し方から楽器の特徴を見ていくというコーナーが設けられています。これは海野委員からも出たように、今回、とても丁寧に吹き方等、口の当て方とか、そういう部分では、写真を大きく使って、分かりやすく子どもたちに提示しているのかなと思います。曲的にはそんなに難し

いものではないと思うのですが、やはり基本をといるところなのでしょうか、「ひらいたひらいた」や、「さくらさくら」とか、本当に基本的なものを取り上げて、どの子どもたちも学べるような選曲がなされているのではないかと思います。そういう点では、限られた時間数の中で学ぶには、良い教科書だと思います。

○酒井委員 私は教芸が良いと思っていますが、教芸は特に、70ページに打楽器のコーナーがありまして、いわゆる小学校の合奏とかで特別楽器と言われていたような楽器について、演奏の仕方が細かく書いてあって、鈴ひとつでも、どういうふうに鳴らすと良いのかとか、あとカスタネットとか、そんなに大きくない楽器で、触ることもあるかもしれないような楽器も取り上げてもらっているのがすごく良いと思いました。

音楽のジャンルの幅も、75ページにあるようなモンゴル800とか、若い子はきっと知っているだろうなというような感じの曲も多くて、音楽というものの入り口が、すごく身近なところから切り取ってあるので、子どもたちにとって勉強しやすいのではないかと思います。

○伊藤教育長 濱田委員はよろしいですか。

○濱田委員 はい。

○伊藤教育長 今、教出と教芸についてご意見がありました。1つは、これまでも海老名市では、音楽（一般）で使う教科書と同じ発行者のものを音楽（器楽合奏）で使うという考え方がございます。

実を言うと今、新型コロナウイルス感染症の影響で、リコーダーとか、今まで音楽の授業で使っていたものが非常に使いづらくなって、ギターを始める学校が増えています。ギターですと、それ1本で楽器演奏ができます。

そこで、それぞれギターを紹介しているページを見ると、クラシックギターの演奏については両方とも勉強はするのですが、教芸のほうが、そこにフォークギターやエレキギターも紹介されていて、なおかつ、その下を見るとエリック・クラプトンが紹介されていたり、我々の年代はそうですが、子どもたちにとって、本当にこれから興味を持つような、そういう紹介のされ方をしています。

内容量としては、平井委員が言うように教芸は多くて、この少ない時間をどう扱うかと考えたりもするのですが、だからこそ、私は教芸のほうが子どもたちに会っていると思うのです。先ほどの音楽（一般）もそうですが、多岐にわたるジャンルを学ぶことができ、今の子どもたちはそれぞれが本当に様々な曲を聴いて生活していますので、そういう

子どもたちにとっては教芸のほうが、扱っている楽器は親しみやすいのかなとちょっと感じるところでございます。

以上が私の意見でございます。

ほかにご意見等はございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(教出2票、教芸3票)

○伊藤教育長 結果、最多の3票を得ました教芸を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、音楽(器楽合奏)の採択についての審議を終了いたします。

次に、中学校教科用図書、「美術」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いいたします。

○飛矢崎委員長 美術は、開隆堂、光村、日文の3者です。報告書15ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

開隆堂は、表現の題材では、見開き1ページでその題材の世界観を凝縮した紙面構成になっており、題材の見通しを一目で持つことができる。また、鑑賞では、作者のインタビューなどを積極的に取り上げ、芸術のもたらす豊かな人間性の育成を目指す構成になっている。

光村は、『みんなの工夫』を掲載し、生徒作品の制作過程を参考に「対話的で深い学び」を実現する工夫がされている。また、鑑賞と表現との相互性を意識した構成になっており、教科書の流れが生徒の主体的な学びを導くような工夫がされている。

日文は、図版資料が充実しており、教科書1ページ毎がポスターのような美しい紙面になっており、生徒の興味関心を引きつける工夫がされている。また、美術作品を多くの『原寸大』の図版で掲載し、細かな筆跡や作者がこだわった作品のディテールに迫ることができる。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○濱田委員 3者、どの教科書も非常に多くの作品が掲載されておりまして、創作意欲が

かき立てられるのではないかと思うのですが、そういう点について調査員からどのような報告があったか教えていただければと思います。

○飛矢崎委員長 調査員からは、各発行者の報告に加えて、同じ学習内容を各発行者がどのように扱っているか、具体的に比較した報告がございました。

例えばスケッチのページ、仏像のページ、あと粘土のページなどがそれに当たります。

○伊藤教育長 濱田委員、よろしいですか。

○濱田委員 はい。

○伊藤教育長 ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、協議に入りますので、ご意見のある方はお願いいたします。

○酒井委員 3者見せていただいて、どの教科書もすごくきれいな印刷で、作品も素晴らしいと思ったのですが、生徒作品という点で見ると、私は日文に載っている生徒作品が素晴らしいと思いました。一流の作家の作品と一緒に並んでいても遜色ないぐらいきれいな生徒作品が並んでいて大変驚きましたし、こんなに素晴らしい作品を生徒作品でつくれるのだと、子どもたち自身も感じると思うのです。プロの作家の作品を見て、すごいなと思う気持ちと、中学生がつくった生徒作品を見て感じる気持ちは、また違うものだと思うので、日文の教科書を見てそういう刺激を大いに受けてもらいたいなと思いました。

例えば53ページですが、実際に焼き物は学校ではやらないかもしれないですが、この生徒作品の豆皿とか、ほかのページも本当にそれぞれ素晴らしい作品が載っていて、ぜひこれを中学生の皆さんに見ていただきたいと思いました。

○伊藤教育長 日文は、1年と、2、3年の上、2、3年の下という3冊立てで、光村と開隆堂は、1年と、2、3年の2冊立てという違いはあります。

ほかにはいかがですか。

○海野委員 どちらの出版社も見開きのページがとてもすばらしくて、開隆堂の伊藤若冲の世界とか日文の燕子花図と光村の風神雷神図。特に光村の風神雷神図は、彫刻と絵画と一緒に載せているのですね。同時に扱って、見開きでその違いを表しているのが、子どもたちが鑑賞することによって、いろいろな角度からの意見が出るのではないかという点で、主体的に学べる工夫がされているのではないかと思います。

それに、光村は、絵巻物の鳥獣戯画とか、和紙を使用されていることはすごくユニークだと思いました。また、3年では、レオナルド・ダ・ヴィンチの最後の晩餐、先ほど報告

書にもありましたが、最後の晩餐にトレーシングペーパーを使用することによって、登場人物の絵画上で発言している言葉を子どもたちに想像させることによって、今までにない工夫がされているのではないかと思います。

○伊藤教育長 どの発行者も見開きのページにびっくりするようなすばらしい写真が載っています。ほかにはいかがですか。

○平井委員 3者の教科書を見させていただいて、どの発行者も、美術書というか絵画本を見ているような感じがしました。迫力があってすばらしい美術の本をつくってくださったのだなと思いました。

本当にどこからどういうふうに見ていったらいいのかなと思ったのですが、最初のページから見させていただいて、日文は最初のページの見開きのところを、とてもインパクトのある写真づくりをしてくださっていると思います。

特に2、3年生、下のサグラダ・ファミリアは、細かい彫刻の1つ1つが写されていて、とても印象深いです。私は今までニュースで見るくらいしかありませんでしたので、実際にはこれだけの彫刻が施されているのだなと圧倒されました。とても印象深い教科書のつくりになっているなと思いました。

それから、さきほど意見でも出ていましたが、生徒作品が大きく掲載されていて、生徒の関心を引きやすいのではないかなと思います。

そしてもう1点は、2、3年生、下の24ページに、日本の現代作家の池田学さんという方が載っているのですが、最近日本の芸術家のことを目にしない中で、このように載せてくださっているのがすごく良いと思います。とても細かくて、目を凝らして見ないと分からないぐらい繊細な作品なのですが、私はテレビで紹介されたのを見ただけで、実際にこうやって近くで見るのは今回が初めてなのですが、すばらしい作品をつくっている方だと思います。日本の芸術家でこういう人がいるのだよということを子どもたちに知らせていくことも大事なことのひとつなのではないかと思っています。

また、どの発行者もそうですが、美しい紙面づくりの工夫がされていて、美術ですから、美しさというものが押し出されなければいけないのだろうなと思います。そういう点からも、日文は全体的に資料が大きくて、迫力があって、生徒の興味関心を引き出すものになっているのではないかと思いますので、日文で学ばせてあげたいなと思います。

○伊藤教育長 今、光村、日文ということでご意見いただいているところでございます。ほかにはいかがですか。

3者とも子どもたちが、手にして開くのが楽しみになるようなすばらしい作品を掲載しています。その中でも、平井委員が最後におっしゃるように、日文が今回は図版資料を含めて一歩リードしているな、生徒作品も含めて、非常に充実した図版資料がここに入っているなど感じているところがございます。

生徒たちが美術の時間にこの教科書を開いたときに、こういう作品があると、例えばその領域の作品づくりをしなくても、創作意欲を刺激するという点では意味合いは大きいかなと思っているところがございます。

では、採決に移ってよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします

(開隆堂0票、光村1票、日文4票)

○伊藤教育長 結果、最多の4票を得ました日文を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、美術の採択についての審議を終了いたします。

次に、中学校教科用図書、「保健体育」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いいたします。

○飛矢崎委員長 保健体育は、東書、大日本、大修館、学研の4者です。報告書16ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、『見つける』、『学習課題』、『課題の解決』、『広げる』の4ステップが学習の流れに沿って配置されており、豊かなスポーツライフなどを実現する資質・能力が育成されるように配慮されている。また、心の健康について計13ページにわたり丁寧に扱っており、実際に役立つアサーションの方法を紹介している。

大日本は、『学習のねらい』から『活用して深めよう』まで課題解決型学習によって、保健及び体育に関する知識を身につけることができるよう工夫されている。また、本文ページと資料ページが明確に分けられており、主体的・対話的で深い学びにつながる活動が行いやすくなっている。

大修館は、各章の初めに『章とびら』、各項目に学習課題を意識した『課題をつかむ』『学習のまとめ』を設けて、課題解決の過程を重視した内容が取り扱われている。また、教科を学ぶ意義を実感できるように、学習する内容と実生活との関連を実感できる資料が

用意されている。

学研は、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすいように『学習の目標』、『課題をつかむ』、『考える・調べる』などの流れが工夫されている。また、生徒の探究心に応えるよう『もっと広げる・深める』、『探求しようよ』と詳しい資料や探究的な学習活動例が掲載されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載しております。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○濱田委員 保健体育の教科書を見させていただいたのですが、体育と保健と大きく2つになるのかなと思いますが、この教科書を使った授業というのは年間何時間程度あるものなのか、事務局のほうですか、教えてください。

○伊藤教育長 それでは、保健体育の年間の教科書を使っての授業時数ということで、教育支援課長からお願いします。

○教育支援課長 事務局より回答いたします。教科書を見ていただくと、各学年体育編、保健編と分かれております。体育編とある体育理論で年間3時間以上、保健編とある保健分野で16時間程度ということで、年間19時間程度となります。

○伊藤教育長 濱田委員、よろしいですか、年間19時間程度だということでございます。

ほかにご質問あれば。

○海野委員 先ほどご報告の中に、東書で、実際に役立つアサーションの方法を紹介しているとありましたが、このアサーションの方法とはどのような方法のことなのか、お願いします。

○飛矢崎委員長 アサーションとは、対人コミュニケーションスキルのことです。調査員からは、日常的な場面における対応の仕方、東書の39ページに例が挙げられて報告がありました。

○伊藤教育長 東書の39ページということでございます。海野委員、よろしいですか。45ページにも言葉の意味が載っていますね。

ほかに質問等はございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 では、ご意見をお願いいたします。

○酒井委員 私は、東書の教科書が良いと思っております。先ほどの報告の中にもありま

したが、ストレスへの対処法などが具体的に記載されていて、中学生になると人間関係の悩みとか、相手に自分の意見をどう伝えるのかとか、そういうことでいろいろ対処が難しく感じる場面もあると思います。そういうときに、実際に教科書に載っているアサーションコミュニケーションとか、具体的な方法論も載っているので、よりよいコミュニケーションを助けるためにも、良い学習になると思います。

○伊藤教育長 心の問題というか、その対応の部分がさきほどの報告にあったように、東書の教科書では非常に大きくページが割かれているということですね。

ほかにはいかがでしょうか。

○平井委員 各者とも、教科書の表紙をめくると裏ページに、各学年の学習内容、1年、2年、3年生と全ての学べる内容が書いてあります。これを見て子どもたちが、ああ、こういうものを学んでいくのだなと知ることができる、良い紙面のつくりだと思いました。

今お話を聞いていると、年間19時間ということで、これは体育と保健を合わせて19時間ということですから、非常に短い時間の中でこの1冊を学んでいくということになります。そうすると、先生はある程度ポイントを持って指導してくださるのでしょうが、ある程度子どもの中で、前もって読むなどして理解をしていかなないとなかなか追いついていかなないこともあるのかなと思います。自分の体も含めて身近なことですが、こういう学びの機会がないと、なかなか自分自身を見つめるということはないと思いますので、そういう点では教科書の内容が細やかに記載されているのではないかと思い、東書が良いと思いました。『見つける』、『学習課題』、『課題の解決』、『広げる』と順に学びの広がりをつくってくださっていますので、授業以外でも自ら学んでいけるという点が、短い授業時間の中で勉強するには必要なのかなと思いますので、東書の教科書がいいかなと思います。

○伊藤教育長 今、酒井委員、平井委員から東書の教科書が子どもたちに使いやすいのではないか、また扱いも丁寧ではないかというお話があったところでございます。どこの教科書も、平井委員が言うように、ガイダンス的に、最初のページを開くとどんな勉強をするか分かりやすくなっていることは、とても工夫されていると思います。ほかには意見、いかがですか、大丈夫ですか。

実を言うと、昨日の夜の話ですが、教育部長、それから就学支援課長等も参加した、子どもたちの健康についての研修会がありました。東京大学の先生が来て、オーラルフレイル、要するに高齢になったときに何らかの支障、支援が必要な状況にならないように対応するために、幼少期から、特に小学校、中学校の学齢時にさまざまな保健の勉強をするよ

うなことを、海老名市がモデルケースとしてやりませんかという提案があったのです。

その中で東京大学の先生が、子どもたちが納得できるような資料とか図表とか、そういうものが目で見えて分かることによって、自分たちのこういう生活の仕方によって自分の体がこのように変化するとか、またはこの先こういう生活をするということによって、日本人にはこういう変化があるということを理解していったら、図や表を基に自分の健康を読み取れる力が身につく、それが大人になって自立につながるようなことがあるということをおっしゃっていました。

そういう視点から見ると、東書の教科書はグラフや図表、数字などが多いのです。とても丁寧に組み込まれているので、恐らく授業の時間にやらなくても、子どもたちが資料としてこれを扱ったり、自分で学習を進めることができるということで、うまくつくれているなというのが私の見た感じでございます。自学自習もできるし、また資料も適切に入っていて、子どもたちが科学的に保健というか、自分たちの健康を理解できるようなもの、また、心の健康についても大きく取り扱っているということで、学研や大修館など、体育のほうでかなり力があるような発行者もあるのですが、保健体育の教科書としては、今回は東書の教科書が非常に良くできているのではないかとということが私の判断でございます。

それでは、採決に入ってよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書5票、大日本0票、大修館0票、学研0票)

○伊藤教育長 結果、最多の5票を得ました東書を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、保健体育の採択についての審議を終了いたします。

続いて、中学校教科用図書、「技術・家庭（技術分野）」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いいたします。

○飛矢崎委員長 技術・家庭（技術分野）は、東書、教図、開隆堂の3者です。報告書17ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、『この編で学ぶこと』で他教科の関連や到達目標が示され、見通しを持って学習を進める工夫がされている。また、知識及び技能の習得において、問題解決をするため

に身につける必要がある技能は『TECH Lab』にまとめられている。

教図は、社会で活躍する人のコラムを紹介し、自己の成長や社会への貢献について考える機会を設けている。また、別冊のハンドブックでは基礎的な技能を示す中で、作業手順や工具の安全な使用を示し、事故防止への配慮がされている。

開隆堂は、各編のまとめに『技術と私たちの未来』として、社会や環境と技術との関わりについての理解を深められるよう工夫されている。ガイダンスのページでは、技術の役割、見方・考え方などを取り上げ、3年間の学習を見通しを持って取り組むことができるように配慮されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

技術・家庭（技術分野）は3者から出ています。

技術・家庭の授業時数は週1時間ですね。3年生になったら技術と家庭科を合わせて1時間だから、それぞれ週に30分程度ということになります。時間数としては、それほど扱う時間はないのですが、だからこそ、教科書の役割も大きくなるのかなと感じるところです。

では、報告に対するご質問はないようですので、協議に入りたいと思います。

○海野委員 東書ですが、最初のほうに出てくる、今までにない技術の見方・考え方として、「最適化の窓」、「のぞいてみよう！」という項目があります。技術に対して、生徒が身の回りの技術に目を向けることができることで見方・考え方を働かせながら学習できるように促しているのではないかなと思います。その後の「技術の最適化って何だろう」と書かれていることも、技術って何だろうという疑問から学びに取り組むきっかけになり、良いと思いました。

趣意書に書いてあったのですが、平成28年度版以前の教科書より紙を14%減量しているとのことで、それもとても良いことだと思いました。

○伊藤教育長 教科書に使用される紙の量を前回と比べて14%減量しているのですか。

○海野委員 そのように趣意書に書いてありました。

○伊藤教育長 「最適化の窓」という部分は、確かによく見てみると、いろいろな技術が生活の中で生かされていることが多いことが分かります。

○酒井委員 私も東書の教科書が一番子どもたちに使ってもらいたいと思っています。特

に、プログラミングのところを見て、東書のプログラミングのほうに分かりやすく書いてあるような印象を受けました。後ろのほうにプレゼンテーション用のアプリの使い方も書いてあり、子どもたちがこれから社会に出て使うであろう技術の最初の一步目に学ぶのに良い教科書ではないかなと思います。

○伊藤教育長 コンピューターの基本操作とかを含めてということですね。

○濱田委員 教図ですが、紙面の流利的には、授業の流れや学習過程が見えるレイアウト、あるいは全体の構成に工夫を感じまして、非常に良くできていると思います。ただ、先ほどの授業時数が週1時間ということ踏まえると、やりきるのが非常に厳しくなってくるのではないかと思うのです。先生にも負担がかかると思いますし、さらに、別冊のハンドブックも、とてもボリュームがあります。だから、そういうことを考えますと、教図の教科書はボリュームが逆に大き過ぎるのではないかと思いました。

○伊藤教育長 教図については、丁寧に内容を扱っていて、ハンドブックもついていて、内容が充実しているのは確かですが、ボリュームとしては少し多いのではないかなということでございます。

○海野委員 先ほどの意見に付け加えたいのですが、東書の179ページにキーボードの操作のことが書いてありますね。中学校では使わないかもしれないけれども、高校へ行くとどうしてもパソコンが使えるかが重要視されてくると思うので、このように最後に載っていると、勉強するきっかけになるかなと思いました。

○伊藤教育長 今、海老名市でも1人1台パソコンの導入を進めています。教育支援課長、今後、中学校でもキーボードは扱うのですよね。導入についてどんな考え方を持っていますか。

○教育支援課長 現在ですと、中学校にはパソコン教室がありますが、まだ全員分ないので使う頻度は少ない状況にあります。今後、1人1台タブレット、キーボード付きのものが入りますので、そのときには有効に活用できると考えております。

○伊藤教育長 中学校でも、中学生が1人1台キーボード付きのパソコンが使えるようになるということでございます。

○海野委員 ぜひ、お願いしたいと思います。

○平井委員 年間の授業時数をお聞きして、決められた僅かな時間の中で、これらの教科書を使って学んでいくのは本当に大変なことだろうと思いました。教科書を見させていただいて、ふと身内のことを思い出しました。ほとんど学校では基本的な部分を教えている

だけで、あとは家庭に持って帰って勉強しなければならず大変な思いをしていました。自習的な側面もあったと思いますが、家庭に持って帰ってくると、作業の部分も含めて、どういう手順で学習したら良いのか分からないのです。

そういう観点では、東書が比較的丁寧に見開きで紙面づくりをしてくださっているので、家庭に持ってきたときに、こういうものを参考にしながら、親も一緒に学べるかなと思いました。

中学校は、授業の中でポイントを理解して、あとは自ら学ぶ、自学自習をしていかなければ、とても教科書の内容を吸収していくことはできないと思うのです。そうすると、やはり時数の少ない教科は、ある程度細やかにつくってもらっておいたほうが、子どもたちは、そこから学び取るものはあると思います。資料集等も必要な教科もありますが、ある程度教科書の中で学んでいける、そういうことも大切だと思いますので、東書の教科書づくりが、始め、展開、まとめというようなサイクルの中でつくられていますので、ある程度見通しを持った学習ができるという点で、良いと思います。

○伊藤教育長 私も東書が非常に分かりやすいと思っています。さまざまなテーマを取り扱っていながらも、とても良くできているのが東書ではないかと思っています。

それでは、これについては意見が大体皆さん同じようですので、採決をしたいと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書5票、教図0票、開隆堂0票)

○伊藤教育長 結果、最多の5票を得ました東書を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、技術・家庭(技術分野)の採択についての審議を終了いたします。

次に、中学校教科用図書「技術・家庭(家庭分野)」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いいたします。

○飛矢崎委員長 技術・家庭(家庭分野)は、東書、教図、開隆堂の3者です。報告書18ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、課題と実践例が多く取り扱われ、目標が明確になるよう工夫されている。また、学校状況や様々な場面に応じて学習が進められるよう、幼児とのふれ合い活動など写

真や動画などを通して学ぶことができる配慮がされている。

教図は、時代に応じた題材を扱うとともに、イラストなどが効果的に使われており、学習への導入がスムーズになり、興味関心が高まるように構成されている。また、UDフォントの使用やキーワードを青文字で表記するなど見やすい工夫がされている。

開隆堂は、『話し合ってみよう』、『やってみよう』など対話的で深い学びができるように構成されている。また、『生活にいかそう』や『参考』では、実生活につなげるための工夫がされている。目に優しく見やすい色遣いが用いられ、紙面に統一感がある。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、委員長報告に対する質問等ありましたらお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ご意見等ありましたらお願いいたします。

○酒井委員 私は、開隆堂の教科書が良いと思っております。3点、特に良いと思う部分がありまして、1点目は、帯の結び方まで書いてあるということです。和服の着つけが各教科書、載っているのですが、帯の結び方まで載っているのは開隆堂だけで、帯を結べないと出かけられないので、そこまできちんと書いていてくれると、実際に着つけをして出かけていくということが可能になるので、良いと思いました。

また、2点目としては、後半の消費者教育の部分ですが、中学生の消費者被害というコーナーがありまして、子どもが実際に巻き込まれそうなトラブルとして、スマホの課金等、18歳で成人する子どもたちが思わぬトラブルに巻き込まれたりしないように、教科書に書かれているのが良いと思いました。自分の子どもにぜひそういうことを勉強してほしいと思いました。

3点目は、だしの取り方、調理の部分ですが、開隆堂はだしの取り方がツーステップで書いてあります。例えば東書などはだしを取るのに4ステップあって、初めて子どもがつくってみるときに、4つも手順があると、なかなかだしを取るところから初めてみようとはならないと思うのです。開隆堂に記載されている方法は簡単ですが、必要な情報はしっかり載っていると思いました。

○伊藤教育長 帯の結び方から、だしの取り方まで、欲しい情報がしっかりと入っているということですね。

○海野委員 開隆堂ですが、各編の導入部の写真が学習内容をイメージできるレイアウトになっているのではないかと思います。入り口というのはとても大事だと思うのです。

○伊藤教育長 開隆堂ですね。

○海野委員 それから、ページの下部に、疑問が必ず書かれています。だから、子どもたちが興味を持つことや、疑問に思うことが分かって、気づきにつながるのではないかと思います。

また、154ページの先輩からのエールというのが、本当に先輩からこういうことを学んでくださいということ子どもたちに教えられているような感じがして、ぜひそういうところにも触れてもらいたいと思います。

また、各学年で、最初に「私の興味関心」というページがありまして、身近な生活から「えっ、本当にこんなもの」という疑問を生み出すような紙面づくりの工夫がされているのではないかと思います。

○伊藤教育長 見開きのページに写真が広がっているのが、子どもたちにとって学習内容をイメージしやすいということですね。

○海野委員 はい。

○平井委員 数か月前のテレビで、大学生が上京してくるときに、お母さんと荷物を準備していた映像が流れてきました。その荷物の中に、家庭科の教科書もありました。これから自炊をしていくので、家庭科の教科書を持っていくと、そこに参考になるものがあると思ったので、とっておいた家庭科の教科書を段ボール箱の中に入れましたと言っていたのです。ああ、そういう使い方もあるのだなと思いました。そんなことを思い出しながら、今回、家庭科の教科書を見させていただきました。

今、男女別なく一生懸命調理をする、そういう時代になってきていますし、特に食事に関しては、とても関心が高いように思います。そういう中でどういうものがあるのかと思ったのですが、3者ともカラフルで、とても楽しい教科書にできていました。

また、新学習指導要領に、A、B、Cと3つの観点あるのですが、Aが家族・家庭生活、Bが衣食住の生活、Cが消費生活・環境です。この3つの観点を小・中・高で系統的に学ぶという形に学習内容が構成されています。

特に今回、キャッシュレス化に伴って、中学校の教科書に金銭の管理と購入という項目が追加されています。消費生活など、実生活に関わることを学ぶのが非常に大切になってきているのだなということで、改めて小・中・高の系統性を意識して家庭科を学ぶことが大切だと感じました。

授業時数との関係から、どれだけ子どもたちが学べるのかなと考えたときに、できるだ

け子どもたちにとって見やすく、教科書を開いたときに、すぐその調理の手順などが分かるような紙面づくりがされていることが大事だと思うのです。その点は、どの発行者もきちんとつくられていると思います。

あとは、資料をどのように扱うかという点で、丁寧に資料を提示してくださっているところもあるのですが、私は、家庭科は、ある程度自分で調べることも必要かと思っています。今はいろいろなもので調べることができますので、グループでこんな献立をつくるのだよと言ったときに、各自で調べてくる。そんな中で補助的に資料もあればいいかと思うのですが、載せればきりがないので、ある程度簡素化した中で、きちんと基礎が入っているという教科書がいいのではないかと思います。

開隆堂で私が良いと思ったのが、調理手順の下の方にQ & Aというのを設けたのですね。これがなかなかいいかなと感じました。開隆堂は、資料はそんなに多いとは思いませんが、基本をしっかりと押さえてくださっているので、これを勉強させたらいいかなと思います。

○伊藤教育長 男の子が自炊を始めるにあたって、家庭科の教科書を荷物に入れているというのはなかなか良いエピソードですね。教科書は学校で活用できるのが第一ですが、学校以外でもそうやって活用していただけたら、そんな良いことはないと感じました。

東書は資料の作りがしっかりしていて良いと思いますし、教図も丁寧な作りになっていると思います。しかし、私も今回は、資料と文章のバランスが取れていて、大切な内容をしっかり扱っている点から、開隆堂の教科書が一番良いと思っています。

濱田委員はご意見はよろしいですか。

○濱田委員 はい。

○伊藤教育長 それでは中学校教科用図書、技術・家庭（家庭分野）の採決をいたします。目録順に読み上げますので、挙手をお願いします。

（東書 0 票、教図 0 票、開隆堂 5 票）

○伊藤教育長 結果、最多の 5 票を得ました開隆堂を採択することに決定します。以上をもちまして、令和 2 年度使用中学校教科用図書、技術・家庭（家庭分野）の採択についての審議を終了いたします。

それでは、ここで休憩とさせていただきます。

（休 憩）

○伊藤教育長 それでは、中学校教科用図書、「英語」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いいたします。

○飛矢崎委員長 英語は、東書、開隆堂、三省堂、教出、光村、啓林館の6者です。報告書19ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、聞く・話すを中心とする小学校での学習を受けて、中学校における4技能5領域の力をバランスよく育成する工夫がされている。また、今日的課題や生徒の知的好奇心を喚起する題材を取り扱い、世界に視野を広げられるような工夫がされている。

開隆堂は、1ページに肯定文や疑問文・否定文など、関連した言語材料がまとめて紹介されており、生徒の実態などにより柔軟に展開できるよう工夫されている。また、即興力育成に特化した活動を様々な場面で設定されている。

三省堂は、学びに向かう力を育成するためにQRコードが配置されており、本文の語句や音声に加えて、聞くことや話すことの手本となる内容が用意されている。文構造・文法事項の定着を図る活動などが段階的に選択・配列され、学年の進行を踏まえて積み上げられるよう工夫されている。

教出は、生徒が興味を持てるような話題を豊富に取り込むことで、学習意欲の向上と視野を広げるための工夫がされている。また、学びに向かう力を育成するために、『Can-Do自己チェックリスト』が明示されており、自主学習が進められるように工夫されている。

光村は、登場人物の物語を通じて、身近なことから社会や世界のことへと学習を進められるように配慮されている。また、生徒の発達段階に応じて、世界の抱える環境・教育などを題材にして、SDGsや他教科につながる多様な見方・考え方を育てられるよう工夫されている。

啓林館は、様々な活動を通して新出事項の習熟を図るように工夫されている。また、巻末の『Can-Doリスト』によって見通しを持って授業に取り組めるような工夫がされている。さらに、ユニバーサルデザインを考慮した配色やデザイン、フォントが使用されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○海野委員 小学校の英語は、昨年、光村の教科書を採択したと思うのですが、海老名市教科用図書採択資料作成委員会や学校からの意見で、小学校とのつながりという視点で何

か協議や意見はありましたでしょうか。

○飛矢崎委員長 海老名市教科用図書採択資料作成委員会や学校意見として、小学校で採択した光村の教科書とのつながりという視点での協議や意見はございませんでした。

○伊藤教育長 小学校とのつながりについて意見等はなかったということでございます。ほかに質問はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、英語の採択について協議を進めたいと思います。意見がありましたらお願いいたします。

○濱田委員 開隆堂ですが、定期的にトライコーナーというのが設けられておりまして、そこで即興でコミュニケーションができるような力を育むことができる構成となっております。既に学んだような、習得したような言語材料を使って、その場その場でやり取りをするような力がついていくのではないかと思いました。

○伊藤教育長 即興性、その場その場でコミュニケーションをとるための力が養われるのではないかということでございます。

○酒井委員 私は各者見させていただいて、教出の教科書が良いと思いました。どの教科書も、現行の中学生が使っている教科書よりも、厚みも増して語数も増えているようですが、教出のONE WORLDの教科書は、後ろのほうに暗記用の赤いシートがついています。英語というのは単語を覚えることも大事ですが、この教科書は赤シートを使って覚えられるページが、5ページ、6ページとずっと続いていくのです。ここは附属の部分ではありますが、これだけきちんと覚えることができるようになってくると、それが英語技能の習得へとつながっていくと思いました。

○伊藤教育長 赤いシートを使って勉強できるということです。ほかにはいかがでしょうか。

○平井委員 久しぶりに英語の教科書をしっかりと読んで、中学生のときに英語の先生がどのように教えてくださったのかを思い出しました。時代が違いますから、今とは指導方法が違うのですが、その頃は毎時間単語のテストがありました。必ず実施していたので、毎日家に帰って単語の練習をしないと、授業についていくことができませんでしたが、とても発音のはっきりした先生で、今でも基本的な単語は覚えています。

そんな中で、教出の教科書にはActivities Plus、Questions & Answersという項目があるのですが、そこを読んでいくと、「Do you like music?」というような基本を押さえ

た内容が記載されています。これを読んでいると、昔に学んだ英語の基礎がよみがえってくるのです。基本を身につけておくことは大切で、この教科書を読むと、英語での質問の仕方や答え方などを思い出すことができると思います。本来ならばこれをペアでやるのだと思いますが、一人で読みながら取り組んでも、基本を身につけることができている教科書だと思いました。

また、1年生のリーディングのところ、がまくん、かえるくんという話が入っています。これは小学校2年生のときに国語で勉強するのですが、子どもたちは大体頭の中に入っているもので、単語をたどってだけでも、内容がつかみやすいと思います。英語の文章でも身近に感じることができると思いますし、これも一つの小学校からの繋がりという観点でもあって、また、楽しく中学に入って勉強ができるのではないかなと思うので、教出の教科書で学んでいくのが良いと思いました。

○伊藤教育長 海野委員はよろしいですか。

○海野委員 はい。

○伊藤教育長 今、委員から開隆堂と教育出版というご意見が出ました。東書、三省堂、光村、啓林館もそれぞれの特徴を持った教科書ではございます。

昨年度、小学校の教科用図書採択で、光村の教科書を採択したときのことを思い出したのですが、小学校で英語が教科化して、5、6年生の教科書を採択するという中で、それまで海老名市としては事前に、文部科学省の様々なテキストを利用して学習を進めてきました。そんな中で、海老名市英語教育の流れを踏まえると、光村が最適だと判断したのです。

その決定の大きな理由としては、場面設定が分かりやすいということでした。例えば友達と会って挨拶する場面とか、何か物を借りるとか、場面を設定して英語のコミュニケーションを取れることを学ぶことができる教科書だったため、それを使用することで海老名市では学習を進めてきました。

そういう中で、開隆堂の教科書はコミュニケーションの場面が、イラストを使って分かりやすく、具体的に表現されていて、その場面の中でどういうコミュニケーションを取れるかという英語での表現に対する気づきが得られて、表現をするということに重点を置いて学習を展開できると思うのです。海老名市ではそのような学習を小学校から行っているため、中学校でも引き続いて行うことができると思いました。

また、学校意見の詳細を見ますと、特徴的な意見として、現在、中学校は開隆堂の教科

書を使っているのですが、それが海老名の子どもたちの実態に一番合っていることです。

そういう意味からすると、やはりこれまでの海老名市の小学校の英語の活動、教科としての英語の流れと、中学校でそれを引き継ぐという意味では、私は開隆堂が一番適しているのではないかと考えているところでございます。

小中学校で連続して、具体的な場面の中で子どもたちがコミュニケーションを取るためのエクササイズを重ねていくことができ、英語力、コミュニケーション力をつけていくことができると思いますので、開隆堂の教科書が一番適しているのではないかと判断しております。

海野委員は、ご意見はよろしいですか。

○海野委員 はい。

○伊藤教育長 そのほか、ご意見はございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、開隆堂3票、三省堂0票、教出2票、光村0票、啓林館0票)

○伊藤教育長 結果、最多の3票を得ました開隆堂を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、英語の採択についての審議を終了いたします。

それでは「特別の教科 道徳」の審議に入ります。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、飛矢崎委員長にお願いいたします。

○飛矢崎委員長 特別の教科 道徳は、東書、教出、光村、日文、学研、廣あかつき、日科の7者です。報告書21ページをご覧ください。報告書の内容を要約してご報告いたします。

東書は、役割演技などを主体としたグループエンカウンターのパージを設け、人間関係を築く工夫がされている。さらに、付録の『ホワイトボード用紙』『心情円』により、生徒が積極的に授業に参加できる工夫がされている。

教出は、3年間を通じて葛藤や成長、友情について描いたシリーズ教材が設けられている。また、LGBTなど今日的な課題を積極的に取り入れることにより多様な価値観を理解し合う大切さを考える手がかりとしている。

光村は、『考えよう』の発問で、生徒が多角的・科学的な見方や考え方ができるように

工夫されている。また、「いじめ問題」、「情報モラル」について、3年間を通して考えられるよう『深めたいむ』を設定している。

日文は、罫線がない「道徳ノート」によって自由な表現方法で考えをまとめることができる。また、挿絵、イラストなど生徒の読解を助ける資料を多く取り入れ、学習意欲を喚起できるような工夫がされている。

学研は、道徳の授業への向き合い方『考えを深める4つのステップ』を明示している。また、『深めよう』のページでは、道徳の学びが具体的に提案されている。さらに、「A B版」を採用し、意欲を引き出す工夫がされている。

廣あかつきは、教材の内容に応じた偉人の名言が記載されており、示唆に富んだ格言や名言に触れることができる。また、本冊と別冊の道徳ノートを組み合わせて使用することで、深い学びが実現できるように構成されている。

日科は、いじめ、情報モラルなどの問題を取り上げ、1人1人の個性について考えが深まるような構成になっている。また、主たる教材が各学校の重点内容項目に沿って選択でき、参考資料が学年ごとに豊富に掲載されている。

報告は以上です。報告の詳細及び学校意見については報告書に記載のとおりです。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○海野委員 報告の中で「考え、議論する道徳」をしていくに当たって特徴が見られる発行者はありましたか。

○飛矢崎委員長 調査員会は、全ての発行者、どの発行者からも「考え、議論する道徳」が進められるような工夫がされているというような報告がございました。

○伊藤教育長 どこの教科書もそのように扱いがされているということでございます。

ほかに委員長への質問はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、各委員のほうから協議ということで、ご意見があればお願いいたします。

○平井委員 道徳が教科化されたとき、「考える、議論する道徳」への転換ということで、答えが一つではない道徳的な課題を1人1人の児童が自分自身の問題として捉え、向き合うという具体的な考え方が示されました。道徳の授業は先生方がクラスの実態、子どもの実態を把握しながら、子どもたちとともに考えていく授業であると思います。

そういう点から、道徳には価値項目があるのですが、私はその価値項目が最初に表に出ないほうが良いという思いをずっと持っています。クラスの子どもの実態を踏まえて、子どもがこの教材とどう向き合っていくか、そこが大事なところではないかと考えていますので、教科書の教材の前に主題名、価値項目を入れてあると、子どもの考え方はそこへ向かっていってしまうと思うのです。そうすると、1人1人が自分自身の問題として捉えることができなくなってしまいますので、そういう観点から、私は学研の教科書が良いと思っています。特定の価値観を押しつけることがなく、生徒自らの気づきを促すように配慮されていて、そのことにより、先生が主題名を生徒の実態に合わせて柔軟に運用できますので、ぜひそういう形で道徳授業を展開していただきたい、そういう思いも込めて学研を選びたいと思います。

○伊藤教育長 平井委員から、主題の有無という観点からご意見がありました。例えば、ほかの教科書で言うと、ここでは公平とは何かを扱います、というように出ているものが多いですが、そのようなものがないほうが良いのではないかとのご意見でございます。心に郷土を刻もうとか、あなたにとっての郷土とか、そういう方向性を位置づけるような表題をあらかじめ掲げる必要はないだろうということです。

ほかにはいかがでしょうか。

○酒井委員 私も学研の教科書が良いと思っています。学研の教科書は、テーマがあまり絞り込まれていなくて、子どもたちが感じたままに受け止めてもらうような使い方ができると思います。

また、扱われているテーマそのものも、中学生の子どもの生活の中になじみのあるような問題であったりするので、子ども自身の問題に引きつけて、クラスや班でどういうことを考えているのか、お互いに意見を交換することによって、いろいろな考え方があるのだなと学ぶことができる良い機会になるのではないかと思います。

○伊藤教育長 子どもたちにとって考えやすく、内容が子どもたちの実態に合っているということです。

ほかにはいかがでしょうか。

○濱田委員 私も、今、ご意見がありましたように、学研の教科書を見ていましたが、『考えを深める4つのステップ』という項があるのです。例えば1年生の15ページとか27ページに、「見つけよう」「考えよう」、それから「話し合おう」「生き方につなげよう」という4つのステップを踏みながら、そのグループでの議論や、自らの問いを立てる方法、

そういう具体的な方法や視点が示されておりますので、「考え、議論する道徳」の学びにつながるのではないかと考えております。

○伊藤教育長 海野委員は何か意見ございますか。

○海野委員 皆さんの意見は出ているようですが、私は光村の教科書が良いと思います。海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告にもあったのですが、光村は『考えよう』という見出しがあります。『見方を変えて』という項目などもあり、道徳的な価値についての理解や自覚を深めるために、自ら考えを持ち、友達と話し合う必要性を感じられるつくりになっているのではないかと思います。子どもたちが話し合うということの大切さをより強調してつくられているのではないかと思います。

また、『広げよう』というコラムで、人と人との関係づくりというのがあるのですが、これはよりよく人と関わることができるスキルやコツを学ぶことができる内容ではないかと思いました。

それから、私が光村を選ばせていただくのは、写真や絵の挿入がとても自然で違和感がなく、子どもたちに溶け込んでいけるのではないかと思います。

○伊藤教育長 ありがとうございます。海野委員は光村が良いのではないかとということです。海老名市は、現行は光村を採択しているところですが、今回は学研についてさまざまな意見をいただきました。私も、学研の教科書の題材は、子どもたちに親しみやすいものが多いと考えています。

教科書が定まる前は、道徳の授業は各学校の教員たちが工夫して、子どもたちに合った題材を自分たちで構成して、指導計画を立てて進めてきました。今回の学研の教科書はさまざまな題材があって、それは過去に自分たちで教材を探していた時代に近いようなものが入っていると感じておりまして、非常に良い教材だと思いました。また、平井委員がおっしゃるように、題名の頭に価値項目を言葉で表現していないということも良いと思う点のひとつでございます。3年前に小学校の道徳の教科用図書採択を行ったときに、皆さんで道徳の教科書について議論をしていただいた際、子どもたちは教科書を受け取ったらすぐに読んでしまうから、このことを勉強しますと掲げられていたら、先入観を持ってしまいます。そうではなく、子どもたちの考え方や思いを引き出せる教科書が望ましいというように話し合ったことを思い出したところでございます。

それでは、ほかにご意見はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、教出0票、光村1票、日文0票、学研4票、廣あかつき0票、日科0票)

○伊藤教育長 結果、最多の4票を得ました学研を採択することに決定します。以上をもちまして、令和2年度使用中学校教科用図書、特別の教科 道徳の採択についての審議を終了いたします。

ここまでで、1点目の令和3年度使用中学校教科用図書の採択についての審議は終了といたします。飛矢崎委員長におかれましては、ご報告等、まことにありがとうございました。これからの審議については、海老名市教科用図書採択資料作成委員会での協議の対象ではございませんが、引き続きご同席をよろしく願いいたします。

それでは、引き続き2点目の令和3年度使用小学校教科用図書の採択についての審議に入ります。審議に入る前に、事務局より説明をお願いします。

○教育支援課長 令和3年度使用小学校教科用図書採択についてご説明いたします。

小学校教科用図書については、令和元年度、ちょうど1年前になりますが、海老名市教育委員会7月定例会において、令和2年度から令和5年度まで4年間使用する教科用図書を採択しておりますが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律により、毎年度種目ごとに同一の教科用図書を採択することが規定されております。

令和3年度に使用する小学校教科用図書は、令和元年度に採択した別紙4、資料55ページに一覧としてまとめております。これらと同一の教科書を採択することについて、議決を求めるものでございます。

また、参考として別紙5、資料57ページ以降に「令和2年度使用小学校用教科書 海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書」を添付してございます。

説明は以上です。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明を含めてご質問等がございましたらお願いいたします。

○酒井委員 昨年度、私どもで採択いたしました教科書を、今年度になって皆さん使っていらっしゃると思うのですが、使いにくいとか、そういうご感想は聞いていらっしゃいますか。

○教育支援課長 現時点では、指導しにくい等、この採択した教科書に関するマイナスの意見は聞いておりません。教科書に関する意見としては、新しい教科書には至るところに

2次元コードが掲載されておりました。それを今、学校現場では、タブレット端末で読み取って学習に生かす機会が増えたということで、学び方のスタイルが変わってきていると聞いております。今後、小学校から教科書についての意見がありましたら、随時お伝えをしてみたいです。

○伊藤教育長 ほかには小学校教科書の採択についてご質問、ご意見等ありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、令和3年度は、令和元年度に採択した小学校教科用図書を継続して使用することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。2点目の令和3年度使用小学校教科用図書採択については原案のとおりということで、現在使用しているものを継続して使用するに決定いたしました。

次に、3点目の令和3年度使用特別支援学級教科用図書の採択についての審議に入ります。事務局より説明をお願いします。

○教育支援課長 令和3年度使用特別支援学級教科用図書の採択についてご説明いたします。

通常の小中学校の教科用図書は、採択地区ごとに1種目について1種類の図書が採択され、4年間にわたり使用することになっておりますが、特別支援学級教科用図書については、学校教育法附則第9条により、この限りではなく、文部科学省検定済み教科書及び文部科学省著作教科書に加えて一般図書を採択することができます。

そこで、別紙6、資料77ページ以降に掲載しております、令和3年度用一般図書一覧から教科用図書として児童生徒の実態に応じて採択するという事について議決を求めるものでございます。

なお、別紙6は、令和2年3月の時点のものでございます。

説明は以上です。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明を含め、何かご質問等ありましたらお願いいたします。

○平井委員 今年度の海老名市の特別支援学級の学級数と在籍児童生徒数、一般図書を使用している人数を教えてくださいませんか。

○教育支援課長 現在の小学校特別支援学級の学級数は、市内で39学級ございます。在籍

児童は163名でございます。そのうち77名が一般図書を使用しております。また、中学校特別支援学級の学級数は市内に18学級、在籍生徒は65名でございます。そのうち6名が一般図書を使用しております。

○伊藤教育長 ほかに質問等ありますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採択について協議をしますので、ご意見のある方はお願いいたします。

○平井委員 以前に比べ随分発行者が多くなっていますし、一般図書の数も増えているので、子どもたちの特性に合わせて学ぶにはとても良いかと思えます。特別支援学級の児童生徒の障害や程度によって、能力や特性が活かせるように、その内容にふさわしい図書を、ぜひ保護者とともに選んでいただいて、子どもたちが楽しく学べるように学校にもお話をさせていただきたいと思えます。

○濱田委員 私も平井委員と同意見でございます。その子にとって最も適切な図書が使用できるよう、保護者の方や、特別支援学級の担当の先生が連携をして、十分に共通理解を図った上で決定していただきたいと思えます。

○伊藤教育長 分かりました。今、平井委員、濱田委員からご意見がございました。保護者の方にもちゃんと説明して、納得していただいて、子どもたちの教科書として使う大事な本ですので、決定してほしいという意見でございました。

ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、一般図書を使用することについて、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。それでは、3点目の令和3年度使用特別支援学級教科用図書の採択についてを原案のとおり可決いたします。

○伊藤教育長 本日の日程は全て終了いたしました。

飛矢崎委員長におかれましては、お忙しい中、海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書作成へのご尽力、また、本日はご報告をいただき、誠にありがとうございます。

以上をもちまして、教育委員会7月定例会を閉会いたします。